舟橋、源氏供養、花筐、富士太鼓、通盛、櫻川、山姥、氷室、善界、芭蕉、百萬、舟辨慶、女郎花、關寺小町、自然居士、大會、三輪、軒端梅、盛久、佛原、善知鳥、鄙鄲、野宮、道成寺、葵の上、道明寺、春榮、龍太鼓、放生川、檉、鵜の羽、老松、檜垣、右近、大原御幸以上八十七にして、定家、小鹽、蟬丸、丹後物狂、玉の井、反魂香、二人靜、皇帝、錦木、鐵輪、雲林院、鍾馗、木賊の十三曲目は第四種本に屬す）

敦盛　二卷一册　四九七

和裝綴改裝　八寸五分六寸〇分　上下通丁三十丁（内上十三丁）　四周單邊六寸六分五寸四分　十一行約十九字　十二圖十二頁分、替題簽左肩摺雙邊書名同　内題「あつもり上(下)」柱心あつもり、「〔種〕德堂印」

刊記

慶安四年辛卯曆孟春吉旦　山屋治右衞門刊行

（謠の丁は雙邊古拙の畫風、幸若三十六番の一）

淨瑠璃

天草の四郎　二卷一册　四九八

和裝綴合綴　毘沙門格子に牡丹を配せし地紋黑表紙、七寸四分五寸三分　上十一丁下九丁半　四周雙邊五寸七分四寸〇分　十六行約四十字　上（五圖九頁分）下（四圖八頁分）、題簽左肩雙邊「天草四郎 鶴屋 正本 喜右衞門」　内題「あまくさ物がたり」柱心あまくさ

奧書

寛文六丙午年八月吉日　鶴屋喜右衞門板

（節譜なし所謂六段本の初期に屬す、内容の解題は古淨瑠璃の新研究慶長寛文篇天草四郎島原物語—琅山文庫藏寫本—として見ゆ）

阿彌陀胸割　一册　四九九

和裝綴黃卵色表紙全裏打　七寸四分五寸二分　十三丁　四周單邊六寸五分四寸五分　十七行約四十字　七圖十四頁分、題簽なし　柱心あみた（背丁）

刊記

右者天滿八太夫直之正本を以うつし今開板者也　大傳馬三丁目鱗形屋孫兵衞新板

（天滿八太夫の說經淨瑠璃、從來知られたるは通油町村田屋開板本—用捨箱、金平本全集—本書本文繪共に極似すれど又異版、ほゞ同時の刊なるべし、享保頃と推定さる）

源氏十二だん　闕一册　五〇〇

和裝綴改裝　七寸三分五寸二分　十二丁　四周單邊七寸四分四寸五分　十七行約五十或は六十字　五圖十頁分、題簽なし　外題左肩朱書「源氏十二だん」内題「源氏十二だん ひぜん本ふし」柱心十二段、「前島」の印

（後部一丁闕　完本の解題　古淨瑠璃の新研究慶長寛文篇にあり）

平家物語一之卷　一册　五〇一

和裝綴表紙焦けてもとの色目不明　七寸二分五寸一分　十四丁　四周單邊五寸三分四寸〇分　十七行約四十五字　六圖十二頁分、題簽左肩雙邊「輪入 平家物語一之卷」　内題「第一平家物語一之卷」柱心平家一卷

刊記

右此本者太夫直傳之以正本一字一點無相違寫之候て令板行者也　元祿七年戌正月吉日大傳馬三町目うろこがたや孫三郎板

（所謂六段本、挿畫菱川古山の風、祇園精舍に始まり鬼界ヶ島迄、古淨瑠璃の新研究延寶享保篇推定する平家物語全七卷中の第一なり）

日向かけきよ　一册　五〇二

和裝綴黑表紙　六寸〇分四寸四分　十丁　四周單邊五寸三分四寸〇分　十六行約四十五字　五圖六頁分、題簽なし　柱心かけ

刊記

正德五年未正月吉日　大傳馬三丁目鱗屋喜右衞門板

（松本治太夫正本鎌倉袖日記付タリ日向景清の六段本化、内容解題古淨瑠璃の新研究延寶享保篇に人丸姬れんぼの緣として見ゆ）

石橋山七騎落　二卷一册　五〇三

和裝綴合綴角つなぎの地紋黑表紙　五寸七分四寸三分　上八丁下九丁　四周單邊五寸四分四寸〇分　十三行約二十八字　上（二圖二頁分）下（三圖三頁分）、題簽なし　内題「石橋山七碕落」

（挿畫丹綠入古拙、上二段下二段計四段　節譜全くなし　古淨瑠璃正本集第一所收原本　淨瑠璃刊行の極初期に屬すもの飜刻本解題、寛永中頃と推定）

かるかや　一册　五〇四

和袋綴黒表紙　六寸一分四寸五分　十丁　四周單邊五寸三分四寸〇分　十六行約三十八字　四圖八頁分、題簽なし　柱心かるかや

刊記

享保八年うノ正月吉日

（説教節系の六段本）

かるかや道心　一冊　五〇五

和袋綴改裝　七寸五分五寸二分　十八丁　四周雙邊六寸七分四寸七分　十七行約四十字　七圖十二頁分、替題簽左肩雙邊罫「かるかや道心日比谷横町板木屋彦右衞門」　柱心かるかや

刊記

昆谷横町　江戸板木屋彦右衞問板

（内容六段　太夫ふし　八太夫ふし　三重など節譜あり、本文説經節正本集第二所收、同書解説寛文初年刊と推定）

こあつもり　一冊　五〇六

和袋綴改裝　五寸九分四寸二分　十丁　四周單邊五寸二分四寸〇分　十六行約四十字　十圖八頁分、替題簽左肩雙邊罫「繪入こあつもり」　柱心あつ

刊記

右此正本者太夫直之寫以令板行者也　享保二十一年辰正月吉日うろこかたや孫兵衞

（同じくうろこ形屋刊半紙本十七行本こあつもりと極似の六段本）

弘法大師之御本地　一冊　五〇七

和袋綴黒表紙　六寸〇分四寸四分　十丁　四周單邊五寸四分三寸九分　十六行約五十字　六圖六頁分、題簽左肩雙邊大字書名同　柱心大

刊記

享保四歳亥正月吉祥日うろこかたや孫兵衞板

（畵鳥居風　所謂六段本）

こもちやまうば　一冊　五〇八

和袋綴格子模樣丹表紙　七寸三分五寸〇分　十丁　四周單邊五寸五分四寸一分　十七行約四十五字　三圖六頁分、替題簽左肩外題なし　柱心山うば、「角草」の印

刊記

右此本者太夫以正本令板行者也正月吉日江戸近江屋九兵衞板

（畵は鳥居風、近松門左衞門作嫗山姥の六段本化）

好色橋辨慶　一冊　五〇九

近松門左衞門著、和袋綴改裝　七寸四分五寸二分　三十一丁　三周單邊六寸七分四寸七分　十行約四十五字　六圖十二頁分、替題簽左肩墨書名同　内題「好色橋辨慶作者近松門左ヱ門」　柱心はし弁

（本書近松作享保二年八月廿二日上演鑓の權三重帷子とは本文・版下丸本に有がちなる假名遣等細部の相違の存するのみただ三周に匡郭あると挿畵を持つを相違とす、たゞし挿畵も丁附外にして柱心「ロノ」何丁の如くありて增或は減じたるものと認む、板の比較よりすれば鑓の權三の方先かと思はれど、享保二年七月廿一日日附女敵高麗茶碗の序に「實や好色橋辨慶とは近松門左が思ひつき」とも見ゆ）

熊野之御本地　一冊　五一〇

〔鳥居清信〕畵、和袋綴焦茶表紙　七寸五分五寸三分　十三丁　四周單邊四寸八分六寸五分　十七行約五十字、替題簽左肩書名同　ペンと筆とにて書く

刊記

右者大夫直之正本を以寫之畢　大傳馬三町めうろこ形や孫兵衞新板

（説教節なれど曲節附なく所屬不明、本文は説教節正本集第一所收　水谷不倒寶永頃刊畵者清信と推定）

きよくばろん　闕一冊　五一一

和袋綴毘沙門格子鳥の模樣入黒表紙　六寸七分四寸五分　二十丁　四周單邊五寸六分四寸〇分　十六行約四十或は五十字　六圖十二頁分、替題簽左肩書名同　柱心ろん

（曲節なし　末一丁缺、解題は古淨瑠璃の新研究慶長寛文篇に見ゆ）

公平牛鬼責　一冊　五一二

和袋綴改裝　七寸二分五寸三分　十一丁半　四周單邊六寸五分四寸九分　十五行約五十字　五圖十頁分、替題簽あれど外題なし　柱心きんひら

刊記

二條通丁子屋町正本屋喜右衞門板

（公平本中の珍）

九州軍記　一冊　五一三

和袋綴毘沙門格子模樣入り黄表紙　五寸九分四寸三分　十丁　四周雙邊五寸三分三寸八分　十六行約五十字　四圖六頁分題

題簽なし　内題「九州軍記丹羽五郎左衛門病死の事初段」柱心太

刊記

寅正月吉日

（六段本太閤記の第六巻、内題の上「太閤記第六」とあるべき所破損してなし、解題京大本により古淨瑠璃の新研究延寶享保篇にあり、刊記寅は庚寅にして他の太閤記分冊と同じく初刊は寶永七年なるべし、内題下の細字は内容細目の一）

二しんかうぢざうのほんぢ　闕一冊　五一四

和袋綴改裝　六寸九分五寸一分　十七丁半　四周單邊六寸四分四寸八分　十五行約三十字　六圖十一頁分、題簽なし柱心二しんかう

刊記

延寶三年四月吉日西澤太兵衛板（十九丁表本文末にすぐ小さく書かゝれたり）

見返し（右側破損）

第三まゝ母ほうしゆまろが身替りに立給ふと

新板二しんがう　西澤貞陣

第四ほうじゆ丸都へのほりみち行の事

・第五たmのりしゆつけに成木のもとに忍ひの事

第六ちぞうくやう付りう大べんさいごの事

（本書丁附「十ノ一」「十二」の間一丁落丁ありて完本は十八丁半　挿畫六圖十二頁分なり、なきふし・いろふし等の節譜あり、貞陣は板元太兵衛なり、古淨瑠璃の新研究延寶享保篇參照）

おぐり判官　一冊　五一五

和袋綴木文裏打最終丁の裏製木黑表紙　七寸三分五寸二分　十八丁半　四周單邊六寸五分四寸八分　十八行約五十字　七圖十二頁分、題簽左肩破損あり上部三行に「新版せつきやう」其下右より「おにかけきよ」中央大きく「お」左「てるて車」とあり　柱心おぐり

刊記

延寶三乙卯天孟夏吉日正木屋五兵衛板

（節譜あり、木文說經節正本集第二所收）

おぐりの判官　闕一冊　五一六

和袋綴改裝　六寸〇分四寸四分　九丁　四周單邊五寸三分四寸〇分　十七行約三十五字　四圖七頁分、題簽なし　柱心おぐり

（末一丁缺爲に第四圖目半缺、享保七年鱗形屋刊本と思はれ延寶三年刊說經節おぐり判官の六段本化）

おぐりの判官　一冊　五一七

和袋綴黑表紙　六寸二分四寸五分　十丁　四周單邊五寸四分四寸〇分　四圖八頁分、替題簽左肩黃蘗色墨書「昔繪入　淨瑠璃本」　柱心おぐり

刊記

右者太夫直之以正本令板行畢　享保七年とらの正月吉日

（前掲に同じ、享保七年鱗形屋刊の版元を削りし後刷）

さんせう太夫　一冊　五一八

和袋綴黑表紙　六寸〇分四寸四分　十丁　四周單邊五寸一分三寸九分　十七行約五十字　五圖六頁分、替題簽左肩白紙墨書名同　柱心さんせう

刊記

・享保七年とらの正月吉日うろこかたや孫兵衛板

（說經節系六段本　古淨瑠璃の新研究によれば享保八年の後刷あるが如し）

しやかの御本地　一冊　五一九

（鳥居清信）畫、和袋綴改裝　七寸四分五寸三分　十三丁　四周單邊六寸五分四寸五分　十七行約四十五字　六圖十二頁分、替題簽左肩鼠色墨「しやかの御本地大傳馬三丁目」（下部中央鱗形屋の三つ鱗の紋）　柱心しやか

刊記

右者大夫直傳の正本を以一字一點無誤うつし令開板者也

大傳馬町三町目うろこかたや孫兵衛新板

（刊年不明裏表紙裏に朱「寶永二年正月上旬」とあり、水谷不倒寶永頃刊淸信畫と推定、古淨瑠璃の新研究延寶享保篇しやかの本地として解題し、題簽より天滿八太夫正本なりと云ふ、たゞし曲譜付は七太夫、ワキ梅太夫などあり、木文說經節正本集第一所收）

しだの小太郎　一冊　五二〇

和袋綴黑表紙　六寸〇分四寸四分　十丁　四周單邊五寸四分四寸〇分　十七行約四十七字　三圖六頁分、題簽左肩雙邊半ば破損上部横に「繪入」とあり「信田小太郎」とありしものゝ如し　柱心した、「遠藤氏」の印

（說經節系の六段本、古淨瑠璃の新研究延寶享保篇に解題する西村與八刊本に等しく思はる）

嶋原軍記二　一冊　五二一

和袋綴改裝　六寸〇分四寸三分　十丁　四周單邊五寸三分四

寸〇分　十六行約四十字　六圖六頁分、題簽なし　內題「嶋原軍記二　天草四郎を大將に立し事初段」柱心嶋原二

刊記

右此嶋原軍記と申書は切支丹御せいはつの本なり然□□勝にして萬人に通しかたく今又ひらかなにして□□ものなり此あとよりたん〳〵すゑを出し申候　享保三年戌正月吉日

大傳馬町□町目□□□左衛門板

（六段本　破損甚し、古淨瑠璃の新研究延寶享保篇參照）

しんとく丸　一冊　五二二

和裝綴改裝　七寸四分五寸三分　十三丁　四周單邊六寸四分四寸八分　十七行約四十五字　五圖十頁分、題簽左肩破損あり三行に「（上部破損）清水まふて」「しんとく丸」「おとひめ道行」大坂七太夫正本」其下「大傳馬三町目」丸に三つ鱗の紋あり　柱心しん

刊記

大傳馬三町目うろこかたや孫兵衞新板

（說經節正本集第一所收本と同一にして佐渡七太夫正本、ワキ・ことば・道行・三重など節譜あり、水谷不倒氏推定　天和貞享年間刊　杉本正高或は石川流宣の畫風、題簽破損の所は「のぶよし」とあるべし）

太閤記第四 明智合戰　一冊　五二三

和裝綴改裝　六寸二分四寸四分　十丁　四周單邊五寸五分三寸九分　十六行約四十三字　五圖六頁分、題簽なし　內題「太閤記第四 明智合戰とつとり軍水せめ」柱心太四ノ卷

刊記

庚寅正月吉日　板

（全七卷六段本太閤記の第四、全卷の解題古淨瑠璃の新研究延寶享保篇にあり、庚寅は初版の刊年寶永七年、本書後刷なり、內題の下細字は內容細目）

天王寺彼岸中日　一冊　五二四

和裝綴改裝　七寸二分五寸二分　十五丁半　四周單邊六寸七分四寸八分　十七行約五十五字　十三圖九頁分、替題簽左肩墨書名同　內題「天王寺彼岸中日付タリ本朝鄲鄲之枕」柱心天王寺、「このぬしせんくわ」の印

刊記

〔二條〕通寺町西へ入〔北側　山本九兵衞板〕

（見返しに貼る柱「十八」とある半丁は天王寺極樂土東門中心の石の鳥居下に順禮姿の男仰ぎ見る圖に西國一番二番の詠歌及び「とよかつ花をながめて　たれとてもおなじかりねの

やどあれてながむる花やあるじなるらん」の一首あり、本文丁附又「十八」に終るより見れば最末丁の裏なり、稀書複製會第四期所收本は「十七」丁附及びこの「十八」裏を缺ぐ本書によつて補訂する事を得、本書刊記の部分破損甚し複製會本にて補ふなほ同會解說によれば山本角太夫が語物なり）

當流小栗判官　一冊　五二五

和裝綴改裝　七寸二分五寸三分　十五丁半　四周單邊六寸六分四寸八分　十七行約六十字　十一圖九頁分、替題簽左肩雙邊畫「當流小栗判官平野町正本屋五兵衞」內題「當流小栗判官」柱心判、「このぬしせんくわ」の印

刊記

大坂平野町　（破損）□□や五兵衞板

ゆいせき諍　一冊　五二六

和裝綴改裝裏打　七寸〇分五寸一分　十四丁　四周單邊五寸七分四寸〇分　十七行約四十五字　五圖十頁分、題簽なし　柱心そか一

刊記

右此本者太夫直傳之以正本無相違寫之候て令板行者也　通鹽町鎰屋新板

（所謂六段本挿畫菱川風元祿年間刊と推定、解說古淨瑠璃の新研究延寶享保篇にあり）

善光寺堂供養　一冊　五二七

和裝綴改裝裏打但原表紙白茶表紙　七寸三分五寸五分　十一丁半　四周單邊十八行約七十字　七圖六頁分、題簽左肩雙邊「新板 しなの・國ぜんくわじだうくやう 善光寺 木田よしみつ一生記太夫直之正本 ふ屋町通八文字屋八左衛門」內題「善光寺堂供養」柱心（八）せんくわうじ

刊記

八文字屋八左衞門新板

（表紙見返やだの藤平木田よしみつ如來を負つて虛空をゆくを追ふ「大がらくり」の畫あり、本文は新群書類從第五所收山本土佐掾正本善光寺と字句に極少異あるのみ）

俚謠

〔伊勢音頭集〕　一冊　五二八

和裝綴改裝　四寸六分六寸五分　四十八丁、題簽なし

（伊勢音頭四十六內一つ重復して四十五曲を收む、たゞし末十曲墨寫、內新編の二見眞砂—日本歌謠集成卷七所收—に未收二十四曲を收む、卷頭の一曲「甲寅」とあるは寬政六年、

其他戊亥子などあるは寛政二三四なるべし、中二葉は數丁づゝ出せし音頭集の表紙にして一は「新音頭（一字不讀）葉笛」と題し、「勢州山田河崎南町木村藤兵衞板行」とあり、墨にて、午とあるは天明六丙午か、今一は「新音頭　津登雀河崎南町木村藤兵衞板行」、墨巳巳とあるは文化六か、數曲には墨朱にて三味線譜を加ふ）

〔伊勢音頭集〕　一冊　五二九

和袋綴海松藍色表紙　四寸八分七寸一分　百四十三丁、題簽中央剝脫、「浦碧園圖書記」「伊勢古市千束屋」

（伊勢音頭百四十三曲を收む、後人の合綴せしものなるべく日本歌謠集成卷七所收新編二見眞砂に見へざるもの十一曲、聲曲類纂に見ゆる御ぐし揃・曲枕をも收めたり）

日本戲曲

入鹿大臣　一冊　五三〇

〔白石彥兵衞〕著、和袋綴蝶地紋蓮葉模樣花淺葱表紙　七寸三分五寸三分二十八丁　十二行約三十八字　七圖十四頁分、題簽中央上部破損書名同　內題「入鹿大臣」　柱心（上）入か大臣（中・下）かまたり

（白石彥兵衞作早雲長太夫座元祿六年興行と推定の面向不背玉の改題、細部に相違を作れど同板木、挿畫上部に出場役者の評あり、面向不背玉は元祿歌舞伎傑作集下卷所收）

巖嶋姫瀧　一冊　五三一

和袋綴薄墨色表紙　七寸二分五寸三分　八丁　四周單邊六寸七分四寸九分、十五行約七十字　十圖六頁分、題簽なし　內題「巖嶋姫瀧水がらくり都太夫直正本」柱心姫が瀧　萩原乙彥舊藏

刊記

八文字屋八左衞門新板

（三番續、表紙見返しに貼附の後者番附は最終丁附「十三」の裏より移し貼りしと見ゆ、同番附上部遊女懷中洗濯五卷―寶永年間刊―の豫告あれば寶永年間或は正德初年刊ならん）

けいせん竹生嶋　一冊　五三二

和袋綴黑表紙　七寸二分五寸二分　二十丁　十二行約二十六字十五圖八頁分、題簽中央雙邊「けいせい竹生嶋（破損）」柱心上（中・下）竹、「水谷文庫」「柳亭」

識語

（見返し上貼紙）傾城竹生島一冊京夷屋座正本寶永八年正月の版行なるべし下記「野白內證鑑」には寶永七年秋の序文あり又「禁短氣」には同八年の序文ありされは此の狂言は寶永七年の顏見世のものを翌八年の春版行したるものなるべし（水谷不倒の識語）

（三番續、十一丁目以下透寫、初丁貼紙には「三世種彥（高畠藍泉）舊藏にして下卷同人補寫也」と、表紙見返しに傾城傳受紙子・傾城禁短氣・野白內證鑑三書の廣告、扉に配役其の裏「役者替名の次第」を列擧、ふや町通八文字屋八左衞門板とも見ゆ）

けいせい柏の大黑天　一冊　五三三

和袋綴無地藍綠ほかしの表紙　七寸二分五寸三分　十一丁半十二行約四十五字　八圖四頁分、題簽中央代赭色「けいせい（破損）天榊山座二の替」內題「けいせい柏の大黑天二の替あやめ小佐川　大あたり」柱心柏

刊記

八もんじや八左衞門

（三番續、表紙見返し役者番附立役小佐川十右衞門立女形よし澤あやめ、伊原敏郞日本演劇史芳澤あやめ正德三年榊山四郞太郞座二の替り傾城柏の大黑天におぎんをつとむと報す、木書その狂言本、正德三年刊ならん）

けいせい新あさまのだけ、　一冊　五三四

和袋綴改裝裏打　七寸二分五寸二分　十六丁　十二行約四十五字　八圖八頁分、題簽中央薄赤地雙邊「新けいせいあさまのだけ　ふや町通八文字屋八左衞門より」內題「あさまがだけ」　柱心裁斷にて不明

（高野辰之演劇史研究第三輯所收歌舞伎狂言本解題によれば、享保十六年早雲長太夫座にて傾城淺間嶽再演に際し、元祿十一年初興行の際の狂言本中下を興行版行せしものなりと、挿畫も同、見返しも「今の上上吉けいせいかいの上手立役中村七三郞此度嵐三右衞門仕り候」など一部を改めしのみにて使用せり）

心中八嶋　一冊　五三五

富永平兵衞著、和袋綴黑表紙　七寸二分五寸四分　四周單邊六寸五分四寸九分　十五行約四十五字　九圖七頁分、題簽左肩雙邊「心中八嶋　二條通正本屋九兵衞」內題「心中八島」柱心嶋

刊記

二條通寺町西へ入北側正本屋九兵衞新板

（三番續、題簽の他に肌色長方形　貼外題少しく破損あれど、立役大和屋甚兵衞　作者〔富永平兵衞〕を兩側に中央大きく

「村(破損)衛門」とあるは、萬字を幕に配せしより座木村山平右衛門の名なるべし、表紙見返しに貼る役者番附は「十三」の丁附あり、最終丁裏なり)

平安朝物語

うつほ物語　寫　二十冊　五三六

和裝綴紺地に金泥の草花を描きし表紙　七寸九分五寸七分
十行、題簽左肩金泥雲形を配せし丹色紙「うつほとしかけ」の如く外題下ならひの數と卷の名をしるす、「島原秘藏」
奥書
(一冊末)　此一冊言葉つゝき手爾於葉假名つかひ等何も不審多しといへとも本のまゝ令書寫後見之輩右之以得心可有一覽者也干時慶長十五年庚戌三月十四日筒庵主道人一校了
(慶長十五年筒庵主道人寫本よりの傳にして江戸期も中頃の寫とおほし、「五ならひ菊の宴」とある相違あれど　濱田本系統ならんか)

うつぼ物語　繪卷物　五卷　五三七

卷子木布表紙裏布目金紙用紙鳥の子に金泥草木を描く、一尺一寸〇分、一(五圖)二(六圖)三(六圖)四(五圖)五(五圖)、題簽左肩金泥雲形短冊形紙墨「うつほ物語(一—五)」
(宇津保物語俊蔭の卷の繪卷、本文末に「その後いとめでたき御遊び多かりけり」と、流布本とやゝ相違　江戸時代中頃の寫か)

○

源語歌註　寫　二冊　五三八

和裝綴縹表紙　九寸五分六寸六分、題簽なし外題左肩金泥書名同、「田安府芸臺印」共他一
(源氏物語の和歌を卷毎に摘出略解せり、朱にて和歌の前文を加へ補註す、又青にて文字遣を正す、皆同一人の筆なり)

源語裝束抄付肖柏問答抄　寫　一冊　五三九

一條兼良・牡丹花肖柏著　和裝綴改裝裏打　九寸二分六寸四分二十六丁　十行、題簽なし外題中央「源語裝束抄付肖柏問答抄」、「廣幡家文庫」「廣池藏書」
奥書
(六丁末)　源氏物語不審條々　肖柏尋申　故殿
(末)　文明十二年季春申請一條禪閤御註了肖柏
右一冊者後妙花寺殿下芳翰也可爲重寶物也　天文十三暦仲夏上旬　特進藤判

源語裝束抄　一卷年來任念望平盛從寮々授畢　元祿第十四季冬朱御判　中納言經亮
(肖柏が一條兼良よりの聞書、六丁が裝束の註、あとは語註)

源氏物語　古活字本　五十四卷五十四冊　五四〇

紫式部著、和裝綴小紋樣雲母模樣を散らせし瓶覗色表紙　九寸五分七寸〇分　十一行廿二字、題簽中央雲母摺各卷の名墨にて右下卷數、堀田氏藏書印一
(角倉本源氏物語、慶長中刊)

孟津抄　寫　五十四冊　五四一

九條稙通著　自序　旹天正第三乙亥初秋星節暮齡八十五歲陶化翁跋、和裝綴唐草模樣毘沙門格子入表紙　八寸九分六寸六分十行、題簽左肩縱三寸二分橫七分の小なるもの「孟津抄」として卷數卷の名を下に書込む、「尙舍源忠房」「文庫」
(江戸時代中頃の寫)

無妙抄　寫　三冊　五四二

和裝綴間似合表紙　七寸八分五寸五分　十行、題簽左肩短冊紙書名同、「此主相馬千世(代)」(墨)
(源語の卷々に簡單なる解釋を加へながら梗概を述べしもの三卷目末に「此三冊は明治廿六のとし二月廿三日小田原ニ供奉中ニ求之もの也□□」とあり、江戸時代も末の寫とおほし)

弄花抄　寫　十冊　五四三

牡丹花肖柏・三條西實隆著、和裝綴紺地に金泥にて秋草竹等を描きし表紙　四寸五分六寸七分　十四行、題簽左肩金泥草模樣入丹色書名同　別に所收卷名をしるせる題簽あり凡て題簽と同意匠
奥書
文明第八仲夏初九入眼畢從同年七月中迄上旬見合物語畢同九年二月重加點了私合點略之肖柏追聞書初聞之後十四年長享三季春中八於種玉受庵主說合點一苔卜ハ文明第九宗祇法師所々不審問題後成恩寺禪閤答也肖柏寫本一勘卜ハ文明十二庚子季春肖柏尋申禪閤条々以彼白筆被注付勘載合點等也自桐壺至若菜下其外細碎問題等也以上兩問答花鳥未逢一覽之前瓶仍彼抄之內不審等在之私今所寫之者仲(件)兩問答幷追而聞書等悉一所書載之童稚之不審幷重說等注無答先任本寫置者也
右肖柏老人聞書借請之六月廿七日立筆連々下帳(被註)八月十七日終共功也(七)冊調之靜加一見可清書抄出也　永正七年記之在御判

（女房裝束抄末）此抄は六月下旬立筆今日終筆切調而爲七冊不可他見而已　永正第七八月十七日三條西入道前内大臣在御判

此抄爲愚見辛爾寫置處僧周桂懇望令出寫之更莫許外見而已

永正十六初冬天道遙子

（書寫江戸時代中頃か末に女房裝束抄あり、誤字多し）

紫塵愚抄　寫　四冊　五四四

宗長編、和袋綴山吹茶織物表紙　八寸三分七寸二分　十二行、題簽中央丹色紙書名同

序

（桐壺の初めを抜きし次に）此物語五十四帖のつくりさま心のいつみみなもと遠くながれ初の花ねさしふかく匂ひていつれをすていかなるを殘すへき事には侍らす予年久しくおもひ入道なから老のなみにおほれ山の井の水にしつみて一部をみることかたきゆへに四帖につゝめて三か一をかたとれり物を抄すること人の心さま〳〵にしてかならすとすへきことはり侍らぬにやしかはあれと閑窓のなくさめとしてある世のうちは墨の袖にたつさへなき世の末はむらさきのゆかりともみる人侍れかしとて卷〳〵のなかをちりはかりつゝをろかなる心にまかせてぬき出侍れは紫塵愚抄と是をいふなるへし

（四冊目末に「右之外題者紹巴法師自筆也」とあり、又各冊末に「一校了」朱の書入あり、江戸時代初めの寫と思はる）

師說自見集　寫　六卷六冊　五四五

〔今川了俊〕著　和袋綴淺黃蘗色表紙　九寸四分七寸一分、題簽左肩白紙書名同

奥書

（一冊目）任思出書付之間定爾〔事〕等有之歟了^{拜印判}　俊　在　判

（二冊目）　了　俊　在　判

（三冊目）　了　俊　在　判

應永廿九年壬寅二月三日書寫了以證本校合了

（六冊目）此六帖依所望或人集テ自書之今八十三歲也老筆也仍文字形不分明哉後見人々可被直付寫（爲か）應永十五年五月　日　　松月德翁在印判

サテモ〳〵愚老八十ニアマリテ後世菩提ノ外行時モ不可有他事ニカヽルイタツラ事目ヲシボリ心ヲツイヤシテ書事人ノ思慮モハヅカシク侍レドモ少モウキヤスム時ハ罪深キ雜念世ノウヘ人ノ上ニ付テ心ニウカブメレハ哥連歌ニタヨリタル事ハ同雜念ナガラ根フカヽラヌ間書スサヒ云捨タルマデニテ全執心ノトヾマラヌ也サレハ行時モ無念或ハ念佛申或ハ座ヲ靜ズル事ハサスガニ不叶同ツトメノ木ヒ外ニカ樣ノ事書ヌレバ數寄ノマネ學ノ人ノタメ如形其益モ有ベキカ存バカリ也サラヌ惡念ノミ相續スルヨリハ執心ノ深カラヌ也サルハ哥道モ惡念マキラカサム爲トバカリ存也ニ更ニ人ニマサラムト思フ名聞ヲ存ズ但今比ノ人ハ諸能ヲ名聞ヨリハゲマサル歟サテハ一向サイゴウニヤ成侍ラム

一タヒモ南無阿彌陀佛云人ノ蓮ノ上ニノホラヌハナシタハ事モマコト、イフモハテ〳〵ハトマリ所ヲシル人ハナシ　　德　翁　在　判

寬永四歲丁卯三月吉日書之

（前三冊は續群書類從第四百七十八所收本の如く言塵集と類似して歌語、用例の列示なれども、類從本よりは二冊目全部の餘分あり、後三冊は源氏物語の略註なり、著者を了俊とするは疑ひを存す、朱加筆あり）

○

住吉物語　古活字本　二卷二冊　五四六

和袋綴柿澁色表紙　九寸二分六寸六分　十二行、題簽なし柱心なし

（古活字版之研究に所謂第三種本にして元和寬永年間刊）

とりかへばや　寫　四冊　五四七

和袋綴草模樣毘沙門格子入縹表紙　九寸〇分六寸六分　十行、題簽左肩木文料紙と同一書名同、「島原秘藏」「尙舍源忠房」「文庫」

（近世初期の寫）

とりかへばや物語　寫　四卷三冊　五四八

和袋綴　八寸九分六寸一分　九行、題簽なし外題左肩「取替はや物語上」「止利加へ波や中」「止理嘉邊波や下」、「滋岡庫」

奥書

右とりかへはやの物語四卷は蓬萊氏の本をかりて寫しとり校合もをへぬ天明五年乙巳正月十日　本居宣長

右鈴屋大人の御本もて寫しぬ　加藤磯足

文政四年正月廿日校合をへぬ千むら仲雄

右とりかへばや物語は山岡明阿の校合せし本を得て筆を加へをはりぬ　文政十一といふ年ふみ月十五日　作宿彌直方

今とりかへはや物語は直方ぬしの本をこひ得て人をして寫さしめおのれ校合しをへぬ天保七つといふ年五月十二日

葉山信果

（所謂俊明本の一にして解題は片寄正義「とりかへばや物語

の基礎的研究」―國語と國文學昭和十三年五月號―にあり、諸家書入多し）

鎌倉時代物語

沙石集　古活字本　十巻十冊　五四九

無住撰「干時弘安第二之暦三伏之□□（破損）集之林下貧士無住」の自序、和袋綴改裝　九寸三分六寸七分　四周單邊七寸七分五寸七分　十二行三十三字、題簽なし柱心沙石、「東堂之印」刊記

元和四年正月吉日

（元和四年片假名まじり活字本なり）

室町時代物語・小説

あま物語　奈良繪本　二巻二冊　五五〇

袋綴芦邊に落雁を描く表紙　五寸四分七寸八分　十四行約十三字　上（六圖七頁分）下（七圖十頁分）、題簽中央剝脫

（解題、市古貞次未刊中世小說解題十―書誌學九ノ五―及び清水泰「あま物語に就いて」―國語國文八ノ一―に見ゆ、鎌倉期散佚物語あまの改作ならんと、書名は前記二氏に從ふ）

〔青葉の笛物語〕　二巻　二冊　五五一

和袋綴毘沙門格子唐草浮出し模樣黑表紙　八寸九分五寸九分　十行　上（四圖五頁分）下（五圖五頁分）、題簽左肩剝脫　內題「青葉のふえの物かたり」、一印あり

（書名は朝倉氏日本小說年表の稱呼に從ふ、寛文七年藤井五兵衞刊の後刷、本文は初刷により室町時代物語集第一「青葉のふえの物かたり」として收めらる）

八幡宮御縁起　寫　一冊　五五二

和袋綴浸水に依り灰汁色見返し銀箔散らし布目紙　八寸三分六寸四分　四十六丁（墨附四十四丁）六行約十二字、題簽左肩書名同所々剝ぐ

（室町時代物語集第一所收原本、室町中期を下らざる寫）

八幡本地　奈良繪本　二巻二冊　五五三

胡蝶裝布張藍地に濃藍色の毘沙門格子褐・金・白色糸にて兎模樣を織り出したる表紙金泥にて蝶草花模樣を置く鳥子用紙見返し金布目紙　七寸七分五寸七分　上（五圖五頁分）下（五圖五頁分）十行約十八字、題簽左肩金泥雲形書名同

（室町時代物語集第一所收原本極彩色なれど生彩を缺く、江戸時代初期の寫と推定）

八まんの本地　奈良繪本　二巻二冊　五五四

胡蝶裝金泥松葉藍色松毬を描く砥子色表紙見返し金色布目紙　七寸八分五寸九分　十行約二十字　上（五圖六頁分）下（六圖六頁分）、題簽左肩濃綠色地金泥を刷く書名同

（室町時代物語集第一所收原本、同書解題江戸時代初期の作と推定）

平野よみかへりの草紙　寫　一冊　五五五

和袋綴栗皮表紙　八寸一分五寸七分　四十三丁　九行約十八字、替題簽左肩「平野蘇生草紙」

奥書

此草紙はけいしんほうよみかへりののち見きゝ候し事（共）を、ありのまゝ（に）身づからかきを給ひしが一らんにとりうしなひ（はれ候てこれ）なきよしきゝ參らせ候ほどにかのゆかりのすゐにて候へばよそにてほんをかりうつし候て佛師堂（へ）えきしん申候

永正十年癸酉十二月十六日天王寺ひかしの僧坊の中坊にして（これを）かきうつし候披覽候はん人〳〵は一へんの御ゑかうにあづかるへく候法印政惠さいはん　永享十一年より永正十年まで（は）七十五年になり候がこの事愚僧六歳のときにあたり候か又此さうしの事わたくしいろ〳〵申により候て中坊御自筆にあそはし候て參らせられ候のちに御らん候はんずる御かたは念佛一へん愚僧に為かう候て可給候政惠しきよ七十四それより天文十四年まて（は）廿七年になり申候何も一へんの御為かうあるべく候後代のためかくのごとくしるしまいらせ候天文十四年乙巳二月日

依ㇾ寫ニ舊本一可ㇾ有ニ烏焉馬（之）錯一（者）也慚愧々々于時永祿四龍集辛酉林鐘十八日

（永享十一年は寛永十四年まで百九十九年になるよしの別筆識語あり、その際か本文に濁點假名遣等の補筆及び朱書の句讀點あり、室町時代物語集第二所收原本）

磯崎物語　奈良繪本　二巻二冊　五五六

袋綴藍色鳥子表紙見返し銀色格子模樣　五寸六分八寸〇分　十二行約十字　上（六圖六頁分）下（六圖六頁分）、題簽中央朱地金泥秋草模樣「いそさき物語上（下）」

（岩波文庫お伽草子所收磯崎に比して生硬粗野なれど、接續詞敬語連體詞など少なく、生彩ありて古體を存す、畫も亦粗江戸時代初期を下らざるべし）

いつくしまのゑんぎ　寫　二卷一冊　五五七

和袋綴改裝　八寸三分六寸八分　四十三丁　十二行約十七字、
替題簽外題なし

奥書

右之一卷いづれもかなもしによらす本のとうつし畢　元和
八年正月吉日

（合綴上二十二丁下二十一丁　本文に朱筆の句讀點濁點振假
名書入、題名は上の末「いつくしまのゑんぎの終上卷」とあ
るによる、室町時代物語第一所收原本）

〔十二段草子〕　三卷三冊　五五八

和袋綴深縹表紙　九寸〇分六寸四分　四周單邊七寸一分五寸
三分　十四行約二十五字　上（三圖五頁分）中（四圖六頁分）
下（三圖四頁分）、題簽なし内題「十二段」　柱心上るり上（中
下）、「堀部所藏」

（古淨瑠璃の新研究慶長寛文篇云ふ繪本上るりごぜん十二段ざ
うしに等したゞし、節譜全くなき讀物なり）

かうしん之本地　寫　一冊　五五九

和袋綴　七寸五分五寸一分　十六丁（表紙共）　七行約十六字、
題簽なし外題中央書名同、（表紙見返し）「主荒木市之丞」（墨）

奥書

（裏表紙裏）慶長十弍年卯月吉日

〔熊野の本地〕　奈良繪本　三卷　五六〇

卷子本紺紙に金泥松櫻梅を上中下各々に描き草花模様を配し
たる表紙七寸四分その見返し金銀切箔を散らせし白紙軸唐草
模様を彫りし青銅の嵌軸　一尺上二丈八尺五寸中二丈八尺下
二丈七尺　上（六圖）中（五圖）下（四圖）、題簽左肩外題不明

奥書

元和八年みつのへいぬ二月廿五日（印）

い□ふないせんさま御ひめさま（但し墨にて消す）

（濃極彩色、室町時代物語集第一所收原本、同書解題丹綠本
繪組の組或は紙本に近きものに擬せり）

もくれんのさうし　寫　一冊　五六一

邦輔筆、和袋綴共表紙上下裁斷　八寸二分六寸七分　三十四
丁（表紙共墨附三十一）十一行約二十字、題簽なし外題中央
書名同

奥書

享祿四年後五月二日　我身よになからむのちはあはれとも

たれかいはねの水くきのあと

（表紙見返し「もくれんのさうし邦輔卿筆」と二行に墨書の
奉書紙附箋あり、卿或は御とも讀み得れば市古貞次未刊中世
小説解題八—書誌學九ノ四—には伏見宮邦輔親王御筆と推定
す、室町時代物語集第二所收原本）

おくり　奈良繪本　三卷三冊　五六二

袋綴藍地に上中下それぞゝ金泥にて雲形に菖蒲小松秋草を配
せし表紙裏は金布目紙　五寸七分七寸九分　十三行　上（九
圖十頁分）中（八圖八頁分）下（十圖十頁分）、題簽左肩水
色金泥雲形水邊の芦を描く書名同、「文秊」の印

（說經節調の語り物風、奈良繪本中異色、說經節正本集第二
所收原本）

さるげんじ　二冊　五六三

和袋綴改裝　六寸〇分四寸四分　各九丁　四周單邊五寸四分
三寸九分　十五行約三十字　上（三圖六頁分）下（三圖六頁
分）、題簽なし　柱心さる

刊記

西村屋新版

（享保頃刊と思はれど擬古風をまねてよし、内容御伽草子
本と相違なし）

しやかの本地　奈良繪本　三卷三冊　五六四

袋綴濃藍地に金泥にて各卷花鳥草木を描けども損ひどき表紙
表紙裏にも金箔を置く　九寸七分七寸三分　十一行約二十五
字　上（九圖九頁分）中（十圖十頁分）下（八圖九頁分）、
題簽中央赤地に金泥秋草を描く書名同上剝脱

（德川時代初期の寫か、畫は華麗精緻）

釋迦出世本懷傳記　寫　一冊　五六五

和袋綴納戸鼠表紙　八寸六分五寸八分　三十四丁（墨附三十
二）八行約二十字、題簽なし外題左肩「釋尊出世本懷記全」、
「青木印」「大橋」「寛惠」（表紙右下外題と同筆墨）

奥書

天正九年壬午二月上旬比書之爲師長父母皆成佛道也

（室町時代小說集第四所收原本）

しやうとく太子の本地　寫　一冊　五六六

大和綴の上に更に紙撚りにて綴づ共表紙　五寸四分七寸六分
十六丁（表紙共）、題簽なし外題中央書名同

（行數一定せず十三行より二十一行迄、書體よりして室町末

江戸初寫と思はる）

江戸小說

百八町記　五卷五冊　五六七

如儡子著　末に墨序として「承應四年秋始下日　如儡子これを蹋書にす」の自跋、和袋綴媚茶色表紙　八寸五分六寸〇分三周單邊七寸二分五寸四分　十行、題簽左肩雙邊書名同二・五卷のみありて他は剝脫　柱心百八町記

奥書（刻）

薪づき滅なん跡の思ひ出とこのもとことにのこすことの葉身はかくて死すとも此書みん人の智慧の鑑の影は離れし

物故武心士峯居士老後加筆　武藤氏西察書之

（寛文四甲辰五月吉日　中野道伴板行の初版本刊記を缺ぐ本文日本思想鬪諍史料第五卷所收）

犬枕並狂歌　古活字本　一冊　五六八

秦宗巴著　和袋綴焦茶表紙　六寸二分四寸八分　三十一丁七行、替題簽中央白紙墨「犬まくら并狂歌」

（より大部の原本より抄出して慶長年間刊と推定、國語國文第八卷第四號飜刻所收原本なり）

石山寺入相鐘　二卷二冊　五六九

富尾似船著　和袋綴活色表紙　九寸〇分六寸一分　四周單邊七寸〇分五寸五分　十二行　上（六圖六頁分）下（三圖四頁分）、題簽なし　柱心入相、一印あり

刊記

二條通武村新兵衞開板

（上下觀音の二部にわかる、本文末に「ときに延寶四年三月日市中借屋暗窓下にして記之　洛下富尾似船」と、石山寺參拜紀行）

似我蜂物語　三卷六冊　五七〇

自序、和袋綴白茶表紙　八寸五分五寸九分　三周單邊七寸一分五寸四分　十一行　一（八圖八頁分）二（同）三（同）四（四圖四頁分）五（同）六（八圖八頁分）、題簽左肩雙邊ニ・三、六卷「繪入似我蜂物語」二・四・五卷「ゑ入しかはち物かたり」柱心似我、「者香山房之印」「于水艸堂之印」「只誠藏」其他一

刊記

洛陽書林

識語

此似我蜂物語ハ寛文元辛丑年版本免火災來可謂珍　文化三丙寅五月十日一覽餘ニ書之

（上中下卷各二冊をしめ各卷通丁なり、寛文元年初版なりと云ふ、本書初版本の後刷なるべし、後數度の後刷あり）

自己問答　三卷一冊　五七一

自序　自跋、和袋綴合綴藍行成表紙　九寸〇分六寸二分　五十六丁半（內上二十一丁、中十八丁）四周單邊七寸六分五寸五分　十四行　上（三圖三頁分）中（三圖三頁分）下（三圖三頁分）、題簽左肩雙邊「新板自己問答上」、「眉壽堂章」

刊記

延寶八庚申歲二月仲旬　松會開板

（可笑記風の教訓書なり）

海上物語　二卷二冊　五七二

釋惠中著、和袋綴改裝　八寸四分五寸九分　九行、題簽なし　內題「海上物語」　柱心海、「求古園記」其他二

刊記

寛文六丙午年彌生上旬　山本平左衞門板行

（本文　海表叢書卷五所收）

可笑記　五卷五冊　五七三

如儡子著、「于時寛永十三孟陽中韓江城之旅泊身筆作之」の自跋、和袋綴深縹色表紙　八寸八分六寸〇分　四周單邊七寸二分五寸二分　十一行、替題簽左肩墨書名同　柱心可笑記、「永田文庫」

刊記

寛永壬午季秋吉旦刊行

（朱にて摘出綱目を上部に書したり、後刷改版多き書の初版なり）

〔けんさい物かたり〕　四二卷二冊　五七四

和袋綴活色表紙　九寸〇分六寸二分　四周單邊七寸四分五寸五分　十四行上（四圖八頁分）中（七圖十三頁分）、題簽左肩剝脫　內題上「けんさい物かたり醫針問答」中「けんさい物かたり江戸下道行中」　柱心けんさい

刊記

鶴屋喜右衞門開板

（下缺の如く見ゆれど中の末に刊記物語も一段落をつけたり三冊本を又二冊完にして出せしものか詳かならず、竹齋の追隨書の一にして、醫學知識の濃厚なる所あり）

名女情比　五冊五卷　五七五

「時は延寶八とせ無陽月中の五日落葉堂の好色軒に筆を綾とり侍ぬ」の自序、和裝縹色表紙　八寸一分五寸七分　四周單邊六寸七分五寸〇分　十一行　一（四圖五頁分）二（三圖四頁分）三（五圖五頁分）四（同）五（四圖四頁分）、題簽左肩雙邊一「名女なさけくらべ繪入一」二「名女那佐氣久羅避繪入二」三「名女情玖良邊繪入三」四「名女奈沙計競ゑ入四」五「遊女なさけ競繪入」　柱心名

刊記

□西歲初春吉辰　洛陽書林　瀨尾源兵衛　木田次兵衛開板
（延寶九卽天和元年辛酉の年初刷、本書は刊記に西以上を削りし後刷）

もんがく　二卷二冊　五七六

和裝縹改裝　八寸七分五寸八分　四周單邊七寸一分五寸四分　十四行約二十字　上下各三圖計六圖六頁分、替題簽左肩單邊墨「もんかく明暦四年（開板）上（下）」、「英王堂藏書」

刊記

明暦四年戊九月吉日山田市郎兵衛開板

尤之双紙　二卷二冊　五七七

自序、和裝縹活色行成表紙　九寸一分六寸二分　三周單邊七寸一分五寸七分　十行、題簽左肩書名同下卷剝脫

奥書

（刻）此尤草紙は或人つれ〳〵の餘りに硯にむかひ筆にまかせて書集ける共心あまれりやたらすや然を忝無品親王御覽有て事たらさるをくはへよろしきをたすけ腹に味ひて筆の究とらせ給ふとそ

刊記

慶安貳己丑年仲春良辰　藤井吉兵衛尉新刊
（寬永九年同十一年刊本につゞく後刷なり、本文は二版による近世文藝叢書第七、其他に收めらる）

たから箱　四卷一冊　五七八

楳條軒著　元祿九のとし虛舟子序寬文三癸卯歲大呂如意珠日洛陽隱士江流序、和裝縹利休茶表紙　八寸四分五寸八分　四周單邊六寸九分五寸一分　十行　一（六圖七頁分）二（三圖四頁分）三（三圖四頁分）四（五圖七頁分）、題簽なし外題左肩墨書名同、內題「よたれかけ」　柱心たからはこ、「渡邊藏書」

刊記

元祿九丙子年八月吉日　木屋利兵衛菊屋七郎兵衛合板
（寬文五年刊よだれかけの卷一より卷四迄を收めたる改題本なり、內容はよだれかけにより江戸時代文藝資料第四所收）

薬師通夜物語　一冊　五七九

和裝縹鐵色表紙　八寸二分六寸五分　二十三丁　十行、題簽左肩雙邊破損

奥書（刻）

寬永二十年二月日　大黑判
（奥書に近き頃の刊と推定さる、本文德川文藝類聚卷一所收後、福齋物語　寬永飢饉物語等と改題さる、本書原題簽にして破損なれど「薬師通夜物」の文字僅に讀み得）

○

武道傳來記　八卷八冊　五八〇

井原西鶴著　自序、和裝縹改裝裁斷　八寸三分五寸八分　四周單邊六寸八分五寸一分　十三行　一（四圖六頁分）二（四圖七頁分）三（四圖六頁分）四（三圖五頁分一圖一頁分缺）五、六、七、八（四圖六頁分）、題簽なし　柱心武道・武道鑑の二つを混す、「克明館藏書」其他二

刊記（缺）
（改裝によつて刊記の部分を缺けども初版なるべし、貞享四年卯初夏　江戸日本橋青物町萬屋清兵衛　大坂吳服町眞齋橋筋角　岡田三郎右衛門とあり卷四一丁落）

武道一覽　八卷八冊　五八一

西澤貞陳・神保氏入道著　貞享丁卯龍集育夏日神保氏入道自序「貞享歲次丁卯孟夏十三蓂洛東藤賀大風軒謹書于起霖塾」の序、和裝縹藍表紙　八寸七分五寸七分　四周單邊六寸三分四寸九分　十二行　一（三圖五頁分）二・三・四（二圖四頁分）五（三圖五頁分）六（三圖四頁分）七・八（二圖四頁分）、題簽左肩雙邊「新刊繪入武道一覽」卷一のみ替題簽、柱心委

刊記

貞享四丁卯年五月吉祥日　西澤太兵衛河勝五郎右衛門
（從來諸國敵討の名でよばれ、「諸國敵討武道一覽」の題簽ありと云はる、木書原題簽「武道一覽」とのみなり、貞陳は書肆太兵衛、神保氏の「自序」には貞陳の著作に加筆せし如くあり、大風軒の序には神保氏の纂なりと貞陳かたれりとあり、共著とす、水谷不倒新撰列傳體小說史前編參照）

晝夜用心記　六卷六冊　五八二

北條團水著　湖西鰥平序、和袋綴焦茶色表紙　八寸二分五寸六分　四周單邊六寸五分四寸八分　十一行　一（三圖五頁分）二（三圖四頁分）三（三圖四頁分）四（三圖四頁分）五（三圖四頁分）六（三圖四頁分）、題簽左肩雙邊「繪入晝夜用心記　一（—六終）」　柱心用心記

刊記

寶永四丁亥歳正月吉日　京井筒屋庄兵衛同万木次兵衛　江戸日本橋南一町目須原屋茂兵衛

（本文　有朋堂文庫西鶴文集下所收）

五八三

風流今平家　十二卷六册

西澤與志著、和袋綴縹色表紙　八寸二分五寸九分　四周單邊六寸四分五寸一分　十一行　一（四圖六頁分）二（四圖六頁分）三（三圖五頁分）四（四圖六頁分）五（三圖五頁分）六（五圖六頁分）、題簽左肩雙邊「風流今平家男女身の手鑑」内題「風流今平家町人身の手鑑」　柱心今平家、「かながきぶんこ」「讀書翁法齋悟一」

刊記

元祿十六歳未彌生上旬　京寺町通松原上ル町菊屋七郎兵衛新板

（與志は一風、内容近世文藝叢書第四所收　二、三、四、五、六の五册には方形にて各册内容を略示したる外題紙現存す）

五八四

色縮緬百人後家　五卷五册

西澤一風著　自序、和美濃四折縹色表紙　五寸二分七寸三分　四周單邊四寸四分六寸五分　十四行　一（四圖六頁分）二（四圖六頁分）三（四圖六頁分）四（四圖六頁分）五（四圖六頁分）、題簽左肩剝脫　内題「色縮緬百人後家」　柱心百人後家・百人ごけ（背丁）、「福田文庫」「羽州神山增戸藏書」共他二

刊記

享保三戊戌年正月吉日　洛東三條なわていせや左兵衛板

（内容　江戸時代文藝資料第二所收）

五八五

契情風流杉盃　五卷一册

和袋綴合綴鐵色表紙　四寸二分六寸一分　四周單邊三寸四分五寸四分　十五行　一（六圖十一頁分）二（五圖八頁分）三（五圖八頁分）四（五圖七頁分）五（四圖七頁分）、原題簽左肩雙邊「契情風流杉盃三」　内題「けいせい風流杉盃」　柱心杉盃京一の卷・江二の卷・大三の卷・諸四の卷・金五の卷、「羽州神山增戸藏書」「待賈堂」「江戸四日市古今珍書倂達摩屋五一」共他二

（寶永年間刊と推定、本文卷三迄近世文藝叢書第四所收）

五八六

好色大神樂　五卷五册

和袋綴白茶表紙　七寸三分五寸三分　四周單邊六寸四分四寸八分　十一行約十八字　一（二圖三頁分）二（三圖四頁分）三（四圖五頁分）四（三圖四頁分）五（四圖五頁分）、題簽「繪入好色大神樂（一—二）」卷三以下剝脫　内題「好色代神樂」　柱心かくら

刊記

貞享五戊辰歳正月吉祥日　井筒屋九郎兵衛新板

（元祿十六年好色軒團水作好色大振袖と改題、潁原退藏「好色大神樂について」—日本文化第十四號—參照）

五八七

好色河念佛　五卷五册

（如水軒）著、和袋綴落葉色表紙　七寸三分五寸一分　十行　一（三圖五頁分）二（三圖三頁分）三（三圖三頁分）四（三圖三頁分）五（二圖二頁分）、題簽左肩雙邊一・三・五卷「繪入好色河念佛」二・四卷「繪入好色川ねんぶつ」　柱心川念佛「文林堂」共他二

刊記

元祿十四辛巳年五月雨　書林木村氏

（著者は都女品定の作ある如水軒なりと云はる、近世文藝名著標本集第廿一輯解説參照）

五八八

京縫鎖帷子　四卷四册

森木東烏著　自序、和袋綴焦茶表紙　八寸三分五寸五分　四周單邊六寸一分四寸六分　十行　一（二圖四頁分）二（二圖三頁分）三（一圖二頁分）四（二圖二頁分）、題簽左肩雙邊「京都女曾我増補改正京ぬひ鎖かたひら一」卷一の他破損剝脫　柱心鎖帷子

刊記

旹寶永三年丙戌仲秋吉祥日　書肆綠竹軒榮秀板行

（内容　德川文藝類聚第一所收）

五八九

男色哥書羽織　六卷六册

和袋綴薄褐色菊花唐草模樣入白茶表紙　三寸六分五寸二分　四周單邊三寸二分四寸六分　十二行約十二字　一（四圖五頁分）二（同）三（三圖四頁分）四（四圖四頁分三丁裏挿畫落）五（三圖四頁分）、題簽左肩雙邊上部修飾ありて書名同　柱心「男色哥書羽織」

刊記

元祿十七年申正月吉日　京書林榎並甚兵衛鐫

（四冊目第三丁落　六冊目第八丁落、卷六は特に男色伊勢物語と傍題して三都の男色に擬古戲笑の文をなす、前五卷は單篇集にして俗つれ〴〵・好色五人女等西鶴の模倣多けれど特に男色大鑑よりの剽竊多し）

御伽百物語　六卷六冊　五九〇

白梅園鷺水著　自序、和裝綴落葉色表紙　八寸五分五寸九分　四周單邊六寸五分四寸九分　十三行　一（五圖六頁分）二（五圖六頁分）三（五圖六頁分）四（四圖五頁分）五（三圖六頁分）六（五圖六頁分）、題簽左肩雙邊「近代御伽百物語 日本廻國行□如寶 一」一卷のみありて他は剝脫　柱心おとき

刊記

寶永三丙戌年正月吉日　江戶和泉掾　京寺町通松原上ル町

菱屋治兵衞　開板

（本文　新帝國文庫珍本全集後編所收）

立身大福帳　七卷七冊　五九一

唯樂軒著　「于時元祿十六癸未歲初夏良辰花洛隱士唯樂軒」の自序、和裝綴藍色表紙　八寸九分六寸〇分　四周單邊六寸二分四寸七分　十行　一（三圖四頁分）二（二圖三頁分）三（三圖四頁分）四（同）五（四圖四頁分）、題簽左肩雙邊「世界萬寶立身大福帳一（一七）」柱心立身大福帳

刊記

元祿十六癸未歲仲夏吉祥日　書林京二條通三崎庄兵衞江戶黑門前中野孫三郎大坂平野町三崎半兵衞

（序、目錄の丁の裏表を用ひ上部に圖を入れ七福神の說明をなせり、本文は江戶時代文藝資料第二所收）

西鶴織留　六卷六冊　五九二

井原西鶴著　自序難波俳林團水序、和裝綴黃葉色表紙　八寸五分六寸一分　四周單邊六寸七分五寸三分　十二行約二十五字　一（四圖七頁分）二（同）三（四圖六頁分）四・五・六（三圖五頁分）、題簽左肩雙邊「繪入西鶴織留本朝町人かゞみ一」「繪入西鶴おりとめ本朝町人かゞみ二」「繪入西鶴織留世濃人心三」「繪入西鶴織留世の人（破損）」「繪入西鶴おりとめよの人ごゝ路五」「繪入西鶴織留世濃人心六」　內題「西鶴織留本朝町人鑑」（一―二）「西鶴織留世の人心」（三―六）　柱心世の人心

刊記

正德二壬辰年五月吉日　大坂書林　岩國屋德兵衞　大塚屋權兵衞　油屋與兵衞開板

（卷五・六の末に大坂安土町吉文字屋市兵衞の出版目錄を附す、元祿七年刊本の正德二年再版本の吉文字屋による後刷、

同屋出版目錄中に享保十五年新板の文字あれば、その頃の刊か、初版と序など細部の相違あり）

新可笑記　六卷五冊　五九三

井原西鶴著「難波俳林西鵬（印は松壽）」の自序（吉田半兵衞畫、和裝綴地模樣黑表紙　八寸五分五寸九分　四周單邊五寸九分四寸五分　十一行約二十字　一（六圖九頁分）二（五圖八頁分）三（六圖八頁分）四（五圖八頁分）五（同）、題簽左肩雙邊「繪入新可笑記　二」卷二以外は剝脫　柱心新笑

刊記

元祿元戊辰稔十一月吉日　江戶日本橋青物町萬屋清兵衞　大坂眞齋橋筋吳服町角岡田三郎右衞門板行

（畫者は水谷不倒推定による）

新吉原つねづね草　二卷二冊　五九四

磯貝捨若著　井原西鶴註、和裝綴藍色表紙　八寸五分六寸一分　三周雙邊一邊單六寸一分五寸三分　上（三圖五頁分）下（三圖五頁分）、題簽左肩雙邊「新板繪入つね〴〵草上（下）」柱心吉原、「只誠藏」「遊戲三昧院」「紫香藏」「俳諧書二西精舍第一主萩原乙彥記」其他一

刊記

寶曆四甲戌年十二月吉日　吹田屋太四郎求板

（元祿二年初版本の求板、初版本は珍書保存會により複製さる）

正月揃　六卷六冊　五九五

白眼居士著　貞享五つの年むつきのよき日洛東下白眼居士自序、和裝綴利久茶表紙　七寸四分五寸三分　十行　一（三圖五頁分）二（五圖五頁分）三（四圖五頁分）四（四圖四頁分）五（五圖六頁分）六（六圖九頁分）、題簽左肩雙邊「繪入正月揃五」其他替題簽　柱心正月、「千種文庫」「同學齋圖書記」其他一

刊記

貞享五戊辰歲正月吉日　京二條通觀音町　書肆風月堂開板

（本文卷五迄帝國文庫第三十一所收、表紙題簽の他に長方形の貼紙あり內容を示す、一二三原存、他は補）

諸國落首咄　五卷五冊　五九六

和裝綴改裝裏打　七寸四分五寸三分四周單邊五寸九分四寸四分　八行　一（四圖四頁分）二（二圖二頁分）三（三圖三頁分）四（三圖三頁分）五（二圖二頁分）、題簽なし　柱心落首

刊記

元祿十一戊寅年正月吉日　京書林板行

（巻一一丁缺巻五數丁落　本文は帝國文庫第三十二編所收）

東海道敵討　六巻六冊　五九七

都の錦著　自序已の八月庚申の夜攝州浪速の遊民西澤軒跋、和袋綴改裝三邊裁斷全丁裏打　八寸六分六寸一分　四周單邊六寸九分五寸〇分　十行　一（三圖五頁分）二（三圖五頁分）三（三圖五頁分）四（三圖五頁分）五（三圖五頁分）六（三圖五頁分）、替題簽摺左肩雙邊書名同　柱心東海道敵討

刊記

元祿十五壬午曆孟春大吉辰　書林京洛五條通河勝五郎右衛門江戸日本橋南壹町目升屋五郎右衛門

（一名元祿曾我物語、內容帝國文庫卅二所收）

浮世榮華一代男　闕二巻二冊　五九八

井原西鶴著、和袋綴裏葉色表紙　七寸三分五寸三分　四周單邊六寸二分四寸六分　三巻（四圖八頁分）四巻（四圖八頁分）、題簽剝脫外題中央墨書名同　柱心榮花

刊記

元祿六年酉正月吉日　江戸日本橋靑物丁萬屋淸兵衛大坂心齋橋上人町鴈金屋庄兵衛京油屋宇右衛門松葉屋平左衛門板

（風の巻三、月の巻四の二巻のみ、本文は江時代文藝資料第五所收、西鶴の序存すれど作者として疑を抱く說も存す）

○

咲分五人媳　五巻一冊　五九九

江島其磧著　享保二十年卯のとしの始自序、和袋綴合綴改裝八寸四分五寸七分　四周單邊六寸八分五寸二分　十二行　一（二圖四頁分）二（二圖四頁分）三（二圖四頁分）四（二圖四頁分）五（二圖四頁分）、替題簽左肩墨書名同　柱心咲分、「齋藤文庫」「幸堂私印」

刊記

享保廿卯歳正月吉日　京寺町通松原上ル町　菱屋治兵衛板

（內容　江戸時代文藝資料第三等に所收）

○

東鼠小僧の眞貌稿本　寫　三巻三冊　六〇〇

泉龍亭是正自筆　明治十二菊月自序　自畫、和袋綴共表紙五寸五分四寸〇分、題簽なし外題右肩「東鼠小僧の眞貌」

（序に「予初編の巻より徒書に顯せし鼠小僧が眞傳の二編を至急續れよと」云々とあれば、儀賊眞書鼠の足跡につぐ草雙紙の草稿なり、刊否不明、中巻表紙に「泉龍亭是正作、櫻齋房種畫」の文字あり、房種に描かすべき朱書挿畫の指定、其の他貼紙改正ある事初編と同じ）

儀賊眞書鼠の足跡稿本初編　寫　三巻三冊　六〇一

泉龍亭是正著自筆　明治十二望月自序　自畫、和袋綴共表紙五寸五分四寸〇分、題簽なし外題右肩「儀賊眞書鼠の足跡」

（草紙雙の稿本なれど刊否不明、下巻表紙泉龍亭是正作　櫻齋房種畫とあり、房種畫の豫定と見えたり、朱筆挿畫の指定貼紙しての訂正あり）

お千代半兵衛針供養御事始　寫　一冊　六〇二

關東米著自筆　自畫、和袋綴共表紙全丁裏打　五寸九分四寸一分　二十七丁（表紙共）、題簽なし外題中央「お千代半兵衛針供養御事始前編三部五巻全冊」、「霞亭文庫」「霞亭」

識語

（裏表紙）關東米は振鷺亭の一名也此冊子はさゝはる事ありて彫ならすそのさゝはるところをとりて新うつほ物語といふ繪草紙に柳亭種彥作れり　佛庵老師に送る　柳亭

（種彥が中村佛庵に送れる時の識語に成立事情明かなり）

日下開山名人そろへ　一冊　六〇三

和袋綴橙色表紙　四寸四分三寸〇分　五丁半　四周單邊三寸八分二寸七分、題簽左肩雙邊日下開山名人そろへ　ふうかの根元　藤田」、「永田文庫」

（所謂赤小本にして複製本の原本なり）

兒雷也豪傑譚稿本第十編　寫　二巻二冊　六〇四

美圖垣笑顏著自筆　一筆菴主人序　自畫、和袋綴共表紙　六寸五分四寸五分、題簽なし外題中央「兒雷也第十編上(下)」內題「蝦蟆妖術大蛇怪異兒雷也豪傑譚第十編全二册」

（嘉永二年春江戸和泉屋市兵衛より一陽齋豐國畫にて出刊されしものゝ草稿　本書表紙及び見返しにも共のよし見ゆ、ただし「弘化五戊申春稿脫」「同六稔己酉春發兌」とあるはそれぞれ刊に際して「嘉永元」「同二」と改められたり、上巻挿畫には朱筆にて「大將りつはにおほしめししだいよろしく」など指定あり）

加々見山故郷錦稿本　寫　二卷二冊　六〇五

柳水亭種清著自筆　自序　自畫、和袋綴共表紙　五寸四分四寸〇分、題簽なし外題上左肩「尾上岩藤鏡山故郷錦上の巻」下上部「鏡山故郷錦下の巻」、内題上「一局岩藤中老尾上加々見山故郷錦」下「加々見山故郷錦」

（下表紙に「柳水亭種清省錄」「圖畫」などあり又上下表紙に赤インキ筆にて「寫本上り」などあれど刊否不明　明治に入りての合卷草稿、朱筆畫指定あり）

黄表紙外題索引　寫　一冊　六〇六

朝倉無聲編　「明治丁未晩夏無聲山人識」の自序、和袋綴納戸鼠色表紙　八寸九分六寸三分　十行、題簽左肩紅色雙邊書名同

奥書

辛亥九月文行堂主人來觀此稿請令寫生作覆本二十部此本即共第四也　無聲手記(印)（無聲自筆）

（杜刻にて黄表紙の書名著者畫者刊年を見出し得る書目、千二百部を五十音順に配列す、明治四十年成四十四年寫）

戀娘昔八丈稿本　寫　二卷二冊　六〇七

柳水亭種清著自筆　自序　自畫、和袋綴共表紙　五寸五分四寸〇分、題簽なし外題上左肩「戀娘昔八丈上の巻」下上部の巻「戀娘むかし八丈下の巻」

（合卷草稿、上の表紙に種清省錄同畫延壽堂梓など見ゆ、自畫にて刊の豫定たりしと見ゆれど刊否不明、明治に入りての稿と思はる）

甲子待鼠の本說稿本　寫　三卷三冊　六〇八

泉龍亭是正著自筆　明治十三年辰初春自序　自畫、和袋綴共表紙　五寸三分三寸九分、題簽なし外題右肩「甲子待鼠の本說」（儀賊眞書鼠の足跡三編にあたる草稿、書名を消して「三編の下」などあるにてもしらる、しばらくこの書名を用ふ、上の卷表紙泉龍亭是正作櫻齋房種畫とあり　朱筆挿畫指定、又上卷裏表紙に「外題の寫木一ぱいで困り升木ゟ四方て一分ッ、のばス房種サン丸てつ」と墨書あり、丸てつは延壽堂、刊否不明）

戻駕籠故郷錦繪　寫　六卷六冊　六〇九

山東京山著自筆　自畫、和袋綴共表紙　五寸九分四寸〇分題簽左肩「東の與四郎浪花の治郎作　戻駕籠故郷錦繪作者山東京山　販元伊賀屋勘右衛門」

（前後編各三冊　文化十年僊鶴堂鶴屋喜右衛門より前編歌川國貞畫、後編同國滿にて出刊されし合卷の稿本　朱にて挿畫の指定あり）

青陽石廳礎稿本　寫　四二冊　六一〇

一筆庵可候自筆　自畫、和袋綴共表紙　六寸四分四寸四分、題簽なし外題中央「青陽石第貳(三)篇」内題「黃金赤繩黑白明斷青陽石廳礎二(三)編」

（嘉永二年及三年に甘泉堂和泉屋市兵衛より一陽齋豐國畫にて出版されし合卷の草稿、貳編上と三編上となり、畫は朱にて指定あり、二篇には「嘉永改元申歳稿成酉春發兌」三篇には「維旹嘉永戊申年脫稿同已酉年新春發兌」(序)の文字見ゆ）

新編眞田三代記稿本初二三編　寫　九卷九冊　六一一

柳水亭種清著自筆　自序　自畫、和袋綴共表紙　五寸四分四寸〇分、題簽なし外題所在區々「新編眞田三代記(編數卷)」

（各編三冊三卷、挿畫朱の指定あり、明治に入りての作と思はれるれど刊否不明）

其紫鄙面影稿本　寫　四一冊　六一二

一筆庵可候著　自筆　自序　自畫、和袋綴共表紙　六寸六分四寸七分　十丁、題簽なし外題中央「其紫鄙面影第四編」内題「其ゆかり鄙の面影第四編藤のうら葉のまき」

（仙鶴堂鶴屋喜右衛門より一陽齋豐國畫にて販行されし其由緣鄙俤第四編上の草稿、朱挿畫指定あり、序に維時弘化四年歳在丁未初秋稿脫同戊申春發市　一筆菴主人誌）

德川十五代傳記稿本前後編　寫　四卷四冊　六一三

柳水亭種清著　自筆　同序（後編上）　同畫、和袋綴共表紙　五寸五分四寸〇分、題簽なし外題前編の上上部「德川家十五代前編上之滿喜」下は「前編」「下の卷」「丸銕壽梓」後編上「德川家後編」「上の卷」下は「十五代記後編」「下の卷」「延壽堂新製板」　内題「德川十五代傳記前（後）編上（下）の卷」

（各編上下二冊、明治に入りての合卷草稿、朱筆挿畫指定ありて、延壽堂より刊の豫定と見えたれど刊否不明）

大物船矢倉吉野花矢倉義經千本櫻稿本前後編　寫　四卷四冊　六一四

柳水亭種清自筆　自序（前後共）　自畫、和袋綴共表紙　五寸五分四寸〇分、題簽なし外題位置各樣前上書名同 以下は

「義經千本櫻」

（前編上の卷表紙に柳水亭種淸作延壽堂丸鐵板　畫工松貞、前編下の卷末に貼紙して「芝愛宕下町二丁目二番地編輯人櫻澤堂山御屆明治十四年月日」と認むれど刊否不明、堂山は種淸なり　朱筆揷畫の指定書あり）

○

繪本漢楚軍談草稿　三冊　六一五

爲永春水（鶴鴦貞高）著　葛飾北齋畫、和袋綴改裝　全丁裏打　八寸七分五寸四分　原物七寸二分五寸　四周單邊六寸〇分四寸三分　十一行　一（三圖六頁分）二（四圖八頁分）三（十圖十頁分）、替題簽左肩書名同　內題「訂正補刻繪本漢楚軍談」　柱心繪本漢楚軍談三輯文溪堂藏

（第三輯の卷頭圖像—三にあたる—と卷の一卷三—一、二にあたる—の三卷の草稿、殆ど板下に近きものなれど、所々朱書の訂正あり、卷頭「東都鶴鴦貞高纂述」とあれど、馬琴著述の揷畫のみ變へたる再刻なり）

雲妙間雨夜月卷二草稿　寫　一冊　六一六

曲亭馬琴著自筆　自畫、和袋綴附表紙全丁裏打　九寸四分六寸〇分　原物八寸二分五寸一分　十一行　二十一丁（表紙共）二圖三頁分、原表紙　五行に「全本五冊　曲亭馬琴作　雲妙間雨夜月　二ノ卷　廿三張半　和泉屋平吉柏屋半藏販」

（文化五年歌川豐廣畫にて出刊の草稿本、裏表紙に「文化四丁卯年暑月下旬稿　大吉利市」と三行にあり、馬琴生前子孫の爲に手ばなせし稿本の一なるべし、揷畫朱にて詳細のあらへ書あり）

ますらを物語　寫　一卷　六一七

上田秋成著自筆、卷子本織り物花に唐草模樣落葉色表紙　六寸七分　八寸六分二十尺一寸、題簽左肩奉書紙「秋成翁一乘寺詣の記」

奥書

瑞龍山中隱者七十餘齋（花押）

（題簽は裝釘に際して後人の加へしもの、內容はますらを物語にして、藤井乙男「綾足と秋成」—江戸文學研究所收—紹介飜刻あり）

○

貞操美談 松廼花稿本五編　寫　三卷一冊　六一八

松亭金水著自筆、「積翠陣人叙」の自叙　自畫、和袋綴改裝　六寸七分四寸六分　六十一丁　八行　九圖十七頁分

（刊年未詳刊本の草稿、紙を貼りての訂正あり、略畫にして畫者に對して朱筆の注文あり）

國文

枕草子　古活字本　五冊　六一九

淸少納言著、和袋綴蓮葉模樣紺色行成表紙　九寸〇分六寸三分　十三行、替題簽左肩墨「淸少納言枕草子」　內題「淸少納言」（卷末）、「島原秘書」

奥書

一本奥書として「左中將いまだ伊勢守ときこえし時」云々の文を墨書

（枕草子十三行本木活字本にして古活字版之研究に所謂「は」に屬す）

○

驛路鈴草稿　寫　二冊　六二〇

小佐野豐著自筆、和袋綴黃朽葉色表紙　九寸〇分六寸六分　十行、題簽なし　內題「驛路鈴草稿」、「椎本文庫」

（西川篤雄と共に足利を立ち伊勢大和京に遊びし和文紀行なり）

書簡文・消息往來

近世日本名士尺牘輯覽　四卷　六二一

卷子本　九寸二分

（所收次の如し）

第一卷

三條實美	上野特命全權公使宛	八月廿六日
島津久光	右府公閣下宛	六月五日
岩倉具視	伊達宗城宛	六月十一日
西郷隆盛		四月十六日
大久保利通	松田君宛	十月廿日
木戸孝允	右大臣公閣下宛	五月十四日
伊藤博文	金子大兄宛	二月十二日
山縣有朋	橋本老兄	六月廿日
伊地知正治	山岡鐵太郎宛	十四年九月十七日
副島種臣	稻垣滿次郎宛	四月九日
勝安房	山岡鐵太郎宛	三月廿七日
井上馨	山岡鐵太郎宛	七月十七日

第二卷

西園寺公望	井上馨閣下宛	七月六日

黒田清隆　岡田實德宛　三十一年八月廿日
松方正義　奥田伯大兄宛　七月卅一日
廣澤直臣　林光硯宛　十二月六日
大木喬任　黒田清隆宛　明治十八年十一月
廿五日
板垣退助　三島毅宛　三月十五日
後藤象二郎　澁澤榮一宛　五月四日
榎木武揚　黒田盟臺宛　五月三日
川村純義　黒田清隆宛　四月二日
佐野常民　松方明臺宛　十月廿五日
土方久元　東京府由利知事宛　九月十五日
山田顯義　井上老臺宛　十月廿七日

第三卷

德大寺實則　山岡少丞宛　三月廿四日
大山巖　黒田老臺閣下宛　三月十一日
西郷從道　伊東中將宛　十一月二十九日
伊東祐亨　實德宛　八月一日
樺山資紀　忠輔宛　七月十九日
川上操六　石塚大老宛　九月
高嶋鞆之助　正治宛　五日
谷干城　早川周藏宛　十二月十日

柱太郎　牧警保局長宛　六月二日
陸奥宗光　小島信氏宛　十一月三十日
渡邊國武　黒田伯閣下宛　八月十四日
渡邊洪基　松方伯爵閣下宛　明治廿年三月三日

第四卷

近衛篤麿　園田實德宛　七月五日
元田永孚　佐々木賢臺宛　八月廿五日
山岡鐵太郎　德川家御家扶御中宛　十一月五日
福池源一郎　茅場町宛　三月六日
福澤諭吉　森先生宛　四月六日
新島襄　兒島控訴院長宛　十月廿六日
中村敬宇　八月十日
井上毅　松方伯閣下宛　八月廿二日
森有禮　黒田君閣下宛　七月一日
澁澤榮一　宮島加右衛門　園田實德宛　十一月八日
德富蘇峰　石塚仁兄宛　大正八年五月十一
日
西村天囚　石塚正治、□島錢馬宛　一月四日

狂歌

卜養狂歌集　二卷一冊　六二二

半井卜養著、和袋綴改裝合綴　九寸〇分六寸二分　三十七丁（上二十二丁）　四周單邊七寸三分五寸三分　十五行　十二圖二十一頁分（上九圖十五頁分）、題簽なし　柱心ほく、「玖侶社記」
（天和二年柏屋與市刊本の書肆名を削りし後刷なり、識は菱川師宣なりと云はる）

〔豐藏坊狂歌卷〕　寫　一卷　六二三

豐藏坊信海著自筆、卷子木裏打織物表紙裏金布目紙七寸四分九寸七分五十五尺
奥書
おこと山　信海（花押）
（何人かに送りしもの ゝ 如し）

豐藏坊信海狂歌集　寫　一冊　六二四

豐藏坊信海著　鹿都部眞顏筆、和袋綴間似合表紙　八寸〇分五寸五分　百十八丁　十一行、題簽なし外題左肩「八幡山豐藏坊信海狂歌集」、「若樹文庫」「松亭藏書」共他一
奥書
文化十一年甲戌菊月廿二日淸晨自書肆永覺堂來示乃收藏之文庫中惜多殘闕　蜀山人
文政元年春於蜀山先生借抄一校畢（印「眞顏」）
（朱・墨の校訂を加ふれど尙解し難き多し、なれど歌數の多きは珍とすべし）

御蔭參話の種　寫　一冊　六二五

鈍句齋著　「時に文政十三年千里を走る寅の春先年江戶の眞中より膝栗毛といふ駿足を引出したる十返舍一九が手先の馬師仲間今は伊勢路へ歸り馬サア乘なせへと　青鳥舍一桃改藥菊道」の自序、「昔に文政十有三稔夏四月上浣施行馬の日伊勢海道三寶荒神之巫祝七五三位內蘿注連春」序　文政十三年寅の閏三日雨の降日洒造莽元成跋「梅丘」識、和袋綴柹色表紙　九寸〇分六寸二分　三十五丁　三周單邊七寸九分五寸四分　十五圖三十頁分、題簽左肩剝脫
（御蔭參四日の旅と同著同識にして同じく文政十三年春の御蔭參を題とせし狂歌集にして、前書の紀行體なるにこれは街道寸見の作を收めたり）

御蔭參四日の旅　寫　一冊　六二六

鈍句齋藥の菊道著　干時文政十三稔庚の八月下旬自序　文政

十あまり三の年后の月見の夜樂之齋松圃跋　梅丘識、和袋綴柿色表紙　九寸一分六寸二分　四十六丁　三周單邊七寸六分五寸四分　十九圖三十八頁分、題簽左肩剝脫

（文政三年御蔭參の流行に際しての紀行を地の文を副にし狂歌を主としてものせしもの、著者は狂詩人鈍句齋、各識には交友の發句や狂詩・狂歌を加へたり）

柳亭家集　寫　一冊　六二七

柳亭種彥著自筆、和袋綴附表紙原表紙共紙全丁裏打　七寸三分四寸五分　原物七寸〇分四寸五分　十三丁（原表紙共）原表紙題簽なし外題中央「柳亭家集」、「片山艸彥」「雅樂堂」

（初代種彥の自ら狂歌俳諧を集めしものなり、附表紙見返しに、「三世柳亭種彥子の遺品として子息甁三郎氏より讓り受くる「片山艸彥」の印」とあり）

新撰狂歌集　二卷二冊　六二八

雄長老編、和袋綴改裝裁斷裏打　六寸六分四寸七分　八行、題簽左肩白色墨「狂歌集上」下はなし、「玖侶社記」

（下卷末補寫あり、寛永年間刊）

笑話・一口噺

江戸すゝめ　一冊　六二九

和袋綴白茶表紙　六寸〇分四寸二分　十丁　四周單邊五寸三分三寸九分　十二行　四圖五頁分、題簽なし外題左肩墨書名同

（鹿の子はなし卽輕口大かさりの中卷內題をかへし改題本、二者の上方版なるを江戸板の小型に作れり）

鹿の子はなし　三卷三冊　六三〇

自序、和袋綴縹表紙裏打　七寸四分五寸四分　四周單邊五寸三分三寸八分　十二行　上（六圖七頁分）中（四圖五頁分）下（四圖四頁分）、題簽なし　內題「かの子はなし上」「鹿の子はなし中」「かのこはなし下」但改題入木なり

刊記

元祿三（以下破損）

（序の末一行餘れるは序年ありしが如し、中卷目錄十話にして本文は九話なり最後の丁にて三枚を收む、內題入木等より見て改題本なる事明かなり、輕口大かさり江戸すゞめと同一物なれど、何書の改題なるか不明、元祿初年刊なる事內容にて察知し得、刊記或は初版のまゝなるか）

かるくちばなし　五卷五冊　六三一

和袋綴草模樣淡茶色表紙裏打　七寸五分五寸二分　四周單邊五寸八分四寸六分　十行、題簽左肩書名同　柱心はなし

（元祿年間刊か、內容帝國文庫落語全集所收）

輕口大かさり　三卷三冊　六三二

自序、和袋綴落葉色表紙　七寸四分五寸二分　四周單邊三寸九分五寸三分　十二行　上（六圖七頁分）中（四圖五頁分）下（四圖四頁分）、題簽左肩「輕口大かさり上」「輕口大賀佐李中」「輕口大可左里下」內題「大さかり」、「蘆舟文庫」

刊記

正德六年申初春　會林堂梓

（刊記內題は入木にて　鹿の子はなしの改題後刷本、日本文化第十四號飜刻本の原本）

輕口露かはなし　五卷五冊　六三三

露五郞兵衞著　いはひの月日某序、和袋綴茶表紙　七寸三分五寸〇分　三周單邊六寸二分四寸六分　十行　一（一圖一頁）二・三（同）四（二圖二頁分）五（同）、題簽左肩「御存知のかるくち露がはなしさしあひなし」卷二・四剝脫　柱心露はなし

（元祿四年初版本の改版たゞし話數初版に比して少なし寶曆頃の刊か）

けらわらひ　二卷一冊　六三四

「任書林望山雲子序」の序、和袋綴合綴毘沙門格子模樣草色表紙　六寸三分四寸五分　四周單邊五寸六分四寸〇分　十四行　九圖九頁分（一圖缺）、題簽なし　柱心けら

（元祿初年刊か　藹菱川風　稀書複製會所收　たゞし本書複製會本の序の缺丁を補ふを得べし）

きのふはけふの物語　二卷二冊　六三五

和袋綴取合本上焦茶表紙下改裝裏打　六寸七分四寸七分　上四十九丁半下五十五丁　上三周單邊五寸五分三寸九分　上十行下八行　上題簽なし下替題簽左肩墨「きのふは今日の物語全」上「てんきんもちほん」「京の藥兵衞」

（共に刊記なけれど上は寛永十二年、下は正保四年版なるべし）

二休咄　五卷五冊　六三六

龍耳軒著　蓮實軒序　自跋、和袋綴縹色表紙　七寸五分五寸四分　四單周邊六寸二分四寸九分　十一行　一（一圖二頁

分）二（三圖三頁分）三（三圖三頁分）四（三圖三頁分）五（三圖三頁分）、替題簽左肩墨「二休はなし」剥脱もあり
刊記
　旹貞享五戊辰正月吉日　江戸神田新革屋町西村半兵衛洛陽錦小路永田長兵衛同出水大宮山本八左衛門
（本文刊記なき本にて近世文藝叢書第六所收）

醒睡笑　八巻三冊　六三七

安樂庵策傳著　自序、和裝綴縹表紙所々補　九寸三分六寸四分　十一行、題簽左肩書名同　柱心醒、「英王堂藏書」「百井文庫」
（三百餘話を收む寛永版醒睡笑最初の刊本なり）

醒睡笑　八巻三冊　六三八

安樂庵策傳著　自序、和裝綴格子模樣入草色表紙、巻上の裏巻中の兩巻下の表紙缺　六寸七分四寸六分　三周單邊五寸三分三寸九分　九行、題簽なし　柱心醒睡
刊記
　右之本依誤多有之今改令開板者也　慶安元戊子歳初秋吉旦
（寛永版に次ぐ整版木　内容全く等し）

鹿の巻筆　五巻五冊　六三九

鹿野武左衞門著　自序、古山師重畫、和裝綴改裝裁斷　七寸三分五寸二分　四周單邊六寸二分四寸六分　十一行、原題簽中央雙邊「江戸鹿の巻筆一（―五）」　柱心鹿
刊記
　作者鹿野武左衞門　正德六□□月吉日　武州芝神明□山田屋三四郎版行
（貞享三年版の同版下後刷本　畫も初版と同じく古山太郎兵衞師重なり）

正直咄大鑑　闕二巻二冊　六四〇

石川流舟著　自跋　菱川師宣畫、和裝綴丹表紙　七寸六分五寸二分　四周單邊五寸六分四寸〇分　十二行　白（二圖四頁分）黑（二圖四頁分）、題簽なし、内題白「性次記咄大鑑」黑「盛紫記咄大鑑」
刊記
　作者石川流舟日本繪師菱川師宣　維貺貞享四歳次丁卯皐月吉辰　江戸日本橋青物町藤本兵左衞門板行
（五巻五色に配しだる内白黑の二冊なり、元祿七年萬屋淸兵衞板の後刷あり、從來此の版は未發見）

當流咄初笑　五巻五冊　六四一

洛陽小僧松泉著　自序、和裝綴改裝　七寸四分五寸一分　四周單邊五寸八分四寸二分　十行　一（三圖四頁分）二（三圖四頁分）三・四・五（二圖二頁分）、題簽なし　内題「當流噺初笑」　柱心初笑
刊記
　享保十一年午正月吉日　御池通衣店角萬屋作右衞門

當世はなしの本　一冊　六四二

和裝綴改裝　七寸一分五寸二分　十一丁　四周單邊六寸五分五寸〇分　十二行　十圖五頁分、原題簽左肩浪形邊「新版はなしの本　全」　柱心はなしの本
（元祿寶永年間の京都版と思はるゝや長き笑話十四を收む）

つれづれお伽草　一冊　六四三

和裝綴改裝裏打裁斷　六寸〇分四寸五分　十丁　四周單邊五寸六分四寸〇分　十四行　四圖四頁分、題簽左肩「つれ〳〵御伽草」内題「つれ〳〵御伽草」、「みやをしけを」の印
刊記
　江戸大傳馬（二）町目　鶴屋喜右衞門梓板
（畫菱川風、寛文十二年初版の後刷か、版面粗雜なり）

支那文學

魁本大字諸儒箋解古文眞寶後集　古活字本　十巻二冊　六四四

和裝綴改裝裁斷　七寸八分六寸五分　有界四周雙邊七寸二分五寸一分　八行十五字、題簽なし　柱心古文后
（取合本　上冊は慶長年中刊にして古活字版之研究に所謂第二種本に屬し、下冊は體裁やゝ相違すれど同系活字を用ひたる後れての刊本と思はる、墨朱の書入あり）

諸儒註解古文眞寶前集　古活字本　十巻二冊　六四五

和裝綴改裝裏打　九寸二分六寸九分　有界四周單邊七寸三分五寸七分　九行十七字、題簽なし　柱心古文前、一藏書印あり
（本文卷頭魁本大字諸儒箋解古文眞寶とあり、元和年間刊と推定）

○

御製逍遙詠　宋版　十一卷五冊　六四六

太宗皇帝（宋）著　敕文閣直學士左朝議大夫潼川府路都鈐轄安撫使知瀘州軍州提舉學事兼管内勸農使賜紫金魚袋馮檝恭爲今上皇帝祝延聖壽捨俸添鏤經板三十函補足毗盧大藏永冀流通勸緣福州開元禪寺住持慧通大師了一題、宋版經式包紙紺色表紙一尺〇分三寸八分　題簽なし　外題中央金泥「以御製逍遙詠第（　）伊」柱心「伊詠之（一—十）（板數）」

識語

右逍遙十一卷宋太宗御製而注則其廷臣某所釋聖教序注署共姓名今忘之蓋大藏中添鏤者如卷首附了一所題其雕造自崇寧經重和紹興募緣始成共施財人名往々見各卷萬藏本山廟外藏院中蓋

土御門帝所納而起藏院者爲武藏守平重時重時時以守護京都也已已之歳朝命癈毀佛宇道具寶靑庵住持說禪得之贈余嗟乎六七百年前物其新若手未觸實可珍賞也爲我後者宣永保之毋客說禪之志明治五年壬申歳朝淸撒直謹識時七十有六

（宋版一切經開元寺版柱心下校者の名を刻す、（一）陳才、劉才、陳文（二）傳章、王旬、楊宗、史得、王力、林四、阮中張仁、江俊、□什、石右、傳章（三）王吉、王文、桀中、丘受、高安、崔迪、平輿、林侃、李傑、徐仁、江俊（四）李保孙康、李光、楊宗、鄭、求、辰宗、王中、丘受、王方（五）蔡靑、□保、羊中、林近、皮末、味乎、陳震、付亍、林厚、林森、鄭受）

錦綉段抄　寫　一冊　六四七

和袋綴縹栗皮色表紙　九寸四分六寸五分　百七十二丁　十一行、題簽なし

識語

寛永十歳五月十一日金龍寺下求之也呼鳴□□

（識語より見て室町末江戸初期寫の抄物なり）

○

奇異怪談抄　寫　四卷一冊　六四八

材羅山著、和袋綴深川鼠表紙　九寸二分六寸八分　九十七丁九行、題簽左肩薄代赭色書名同後人の筆

奥書

右一冊故有而書之　于時寛永廿年癸未羅山子

（上之上・上之下・下之上・下之下の四卷にわかる、元祿十一年怪談全書と題して刊行されしものと同一なれど、平假名まじりにして、刊本と比し玉眞娘子、陰摩羅鬼の二話なく

順序や、相違、江戸初期著作より遠からざる時の寫と思はる、怪談全書羅山作を僞ふの說は本書により拂拭さるべし）

イギリス文學

텬로력뎡상　(ThePilgrim's Progess. Translated by Mr. and Mrs. Jas. S. Gale)　二冊　四六九

Bunyan, John 著　Gale, Jas.S. (Mr and Mrs.)譯、唐袋綴黃表紙九寸五分六寸六分、題簽左肩書名同　内題「텬로력뎡셔문」

（一八九五年刊朝鮮語譯朝鮮本天路歷程なり）

ギリシヤ文學

伊曾保物語　三卷三冊　六五〇

Aisopos著、和袋綴改裝裁斷　八寸七分五寸七分　四周單邊七寸〇分五寸一分　十二行　各卷五圖五頁分、替題簽左肩雙邊墨書名同原本よりの透寫し　柱心伊曾保、「竹淸」の印

刊記

萬治貳年己亥正月吉日　伊藤三右衛門開板

識語

（裏表紙裏）こその秋伊勢まつ坂なる靑瓢庵にて此本見侍りしニことし二月文行堂にて見しまゝにもとめつ庵主の沽却せしなりもとの表帋をはきすて四邊を裁ち近ごろの茶表紙かけてありけれハむしつくろひの次手ニふるき太平記の表帋之ありつれはそれと改めつ外題もはきすてられけれは早稲田大學之本もて補ふその本は色白き厚手之かみにて蠟箋まかひの淺黃表紙なりき大正十一年壬戌三月晝竹淸主人鴻雁野堂にてしるす

索引

（表音的假名遣五十音順）

ア

Aisopos……六五〇
青木昆陽（敦書）……三六二
青木定遠……三三九
青木茂房……一六五
青木すがね……一六五
青地盈（林宗）……三六七、三七一
（青葉の笛物語）（九一三・五―イ三三）……五五一
青柳種信……一六五
青柳種麿……二九九
赤井嚴三……三三九
赤蝦夷風說考（〇八一―イ五）……一一三
縣居鈴屋兩翁書翰（〇八一―イ五）……一五四
縣居鈴屋兩翁添削岡適舍詠草（〇八一―イ五）三三五
赤堀たゝ廣……一一三
秋田屋太右衞門……四二六
明智合戰……五三三
秋成翁一乘寺詣の記……六一七
淺井奉政……九
淺井了意……二七三
安積雄助……三三九
朝倉無聲……六〇六
足代弘訓……二三三
淺野彌兵衞……三四九
（淺間山噴火被害狀況）（〇八一―イ五）……一五七
東鼠小僧の眞貌稿本（九一三・六四―イ一一）……六〇〇
敦盛（九一二・六―イ一七）……四九七
姉小路實道……六
油屋宇右衞門……五九八
油屋與兵衞……五九二
天草四郎島原物語……四九八
天草の四郎（九一二・七―イ二九）……四九八
あまくさ物がたり……四九八
あま物語（九一三・五―イ二九）……五五〇
阿彌陀胸割（鱗形屋版）（九一二・七―イ七）……四九九
新井白石……一一三
（荒木田氏系圖）（〇八一―イ五）……五六
荒木田久老……五三、一二一、一六五、三二五
安波禮辨（〇八一―イ一）……一七〇
安永五年當社遷宮次第（〇八一―イ五）……三一
（安永四年大和巡り）（〇八一―イ五）……三九
安西源兵衞……一六六
安藤爲章……七一
安樂庵策傳……六三七、六三八

イ

伊賀屋勘右衞門……六〇九
英吉利疑問……三三九
異國來往記……二九一
井坂傳兵衞……四三四
石川大浪……四二五
石川依平……一六五、一七七
石川流舟……六四〇
石川流宣……三五九、三六一、三七三、五三三
伊地知正治……六三三
石塚龍麿……一六五
石田治兵衞……三八二
石橋山七騎落（九一二・七―イ三三）……五〇三
石山寺入相鐘（わ）……五六九
夷酋問答……三三九
井筒屋九郎兵衞……三八六
井筒屋庄兵衞……五八三
和泉掾……五九〇
和泉眞國……一六五
和泉屋市兵衞……六〇四、六一〇
出雲寺和泉掾……四七八
出雲寺文治郎……四七九
（伊勢音頭集）（九一二・九―イ一）……五二八
（伊勢音頭集）（九一二・九―イ三）……五二九
（伊勢神宮行事繪卷草稿）（一七四―イ三）……二三三
伊勢物語（〇八一―イ五）……七〇
いせや左兵衞……五八四
磯貝捨若……五九四
磯崎物語（九一三・五―イ一五）……五五六
イソップ……六五〇
伊曾保物語（九九二―イ一）……六五〇
板垣退助……六二一
市川恭（齋宮）……四一三、四一四

市川善輔……一六五
市川鳴鶴……一七三
一條兼良……三二三、三二四、五三九
一陽齋豐國……六〇四
いつくしまのゑんぎ(九二三・五―イ九)……五五七
巖島姫瀧(九二三・六―イ九)……五三一
一生軒不埒……四〇五
稜威雄詰(〇八一―イ三)……二〇一
稜威言別紀記歌解草稿(〇八一―イ三)……一九七
稜威道別(〇八一―イ三)……一九三
〔稜威道別異本〕(〇八一―イ三)……一八四
一筆庵可候……六一〇、六一三
一筆斎主人……六〇四
伊藤圭介……四六二
伊藤三右衛門……六五〇
伊藤春元……四七六
伊藤氏老母追善詞序(〇八一―イ五)……三一六
伊東祐亨……六三一
伊藤博文……六三一
稲掛大平……一六五、一八八、一八九、一九〇、四三九
稲掛の君の御返事に更に答へまゐらす書(〇八一―イ一)……一九〇
稲掛のぬしへまゐらする書(〇八一―イ一)……一八八
稲掛棟隆……一七四
稲葉幸年……三〇一
犬枕並狂歌(わ)……五五八
井上馨……六三一
井上毅……六三一
井上筑後守……二八六
井原西鶴……五六六、五八〇、五九二、五九三、五九四、五九八
今井似閑……八
今川状(〇八一―イ五)……一一五
今川了俊……五四五
今村樂……四六七
忌詞内外七言事(一七四―イ一)……二三三
異艤戰法……三三九
易林……一〇
入鹿大臣(九二三・六―イ七)……五三〇
色縮緬百人後家(わ)……五八四
伊呂波字類抄(十卷本)(〇三一―イ五)……八
巖蔭舍……二六四
岩國屋德兵衛……五九二
岩倉具視……六三一
韵鑑紀聞……四四七
韻鏡紀聞(八二一―イ七)……四四七

ウ

上田秋成……六二七
上田百樹……一〇八、一六五、三〇九、三三五
〔上田百樹答書〕(〇八一―イ五)……一〇八
植松有信……一八〇
植松次親……八三
植村藤右衛門……四三六
植村藤三郎……四三三、四四四
上村幽意……一六四、一六五
鳥谷長庸……三〇九
浮世榮華一代男(わ)……五九八
潮田景福……一八六
内山眞龍(彌兵衛)……一六五、三二三、三六三
内藤注連春……六三五
駐田鈍太郎末孫白面書生……四〇七
うつほ物語(九二三・四―イ一)……五三六
うつほ物語(繪卷物)(九二三・四―イ三)……五三七
海上隨鷗……四六一
海上陳人……四六一
畝傍山東山北白檮尾上陵圖說稿……三四〇
梅櫻草の庵の花すまひ(〇八一―イ一)……一七四
うろこがたや孫三郎……五〇一
うろこがたや孫兵衛 五〇六、五〇七、五一八、五一九、五二三
うろこ形や孫兵衛……五一〇

エ

永嘉眞覺大師證道歌……二六九
永言格(九二一・二―イ一)……四六五
永樂大典(〇八二―イ一)……三三四
驛路鈴草稿(九一四・六―イ一)……六二〇
江島其磧……五九九
蝦夷國全圖……三五三
蝦夷全圖……三五一
蝦夷地屬島の議……三三九
蝦夷話(〇八一―イ五)……一一三
江戸すゝめ(九一七・五―イ七)……六二九
榎並甚兵衛……二六一、五八九
榎本武揚……六二一

江原某……三八六
繪本漢楚軍談草稿(わ)……六二五
遠近道印……三五四
圓光寺……三三七
延壽堂……六〇七、六一三
延壽堂丸鐵……六一四
圓水(増田)……五八六
遠西武器圖略(三九五―イ一)……四一三
遠西武器圖略(三九五―イ一②)……四一四

オ

おひつきの考(〇八一―イ五)……一一九
老のなくさ(〇八一―イ五)……一二〇
奥羽後三年記(二一〇・三六―イ一)……三二一
櫻齋房種……六〇〇、六〇一、六〇八
王文成公卷第一……二二五
王陽明……二二五
大江千穎……一一三
大木喬任……六三一
正親町公明……三二三
大久保急鑑……三七九
大久保秀興……三七九
大久保利通……六三一
大坂七太夫……五二三
大典侍局……三一三
太田和泉守牛一……三三五
太田(全齋)……二八六、四一一
大館高門……一六五
太田叙親……三七八
太田方(全齋)……二八六
大塚屋權兵衛……五九二
大槻玄澤……三三九、三三九
大槻磐水(茂質)……四二一、四二五、四三六
大槻平次(磐溪)……三三九、三三九
大槻平治上書……三三九
大作宣政……四七六
大作宣光……四七六
大中臣德辰……四四四
大中臣眞繼……五一三、五一四
太安萬侶……二九六
大平宛書簡(〇八一―イ一)……一九二
大平筆枝折(〇八一―イ一)……一九一
大山巖……六三一
近江屋九兵衛……五〇八
御神樂(〇八一―イ五)……一〇七
御蔭參話の種(わ)……六二五
御蔭參四日の旅(わ)……六二六
小笠原七禮……三九六、三九七
〔小笠原流禮儀書〕(三三八・六―イ一)……三九七
岡田三郎右衛門……五九三
岡田三郎兵衛……一六六
岡田新太郎……二四九
岡田屋嘉七……三三三
をかの舍歌集(〇八一―イ五)……二七
岡部翁十七會忌歌會歌題(〇八一―イ五)……一五六
岡本保孝……四三八、四四〇
小川太左衛門……二四九
小川多左衛門……三八二
奥平昌高……四六三、四六四
小國重年……一三五
小國秀穂……一六五
おくり(奈良繪本)(九二三・五―イ一七)……五六二
おぐりの判官(九二一・七―イ四一)……五一六
おぐりの判官(九二一・七―イ四五)……五一七
おぐり判官(九二一・七―イ二七)……五一五
小栗廣伴……四七八
小佐野豐……六二〇
小關三英……三四五、三四六
小瀬甫庵道喜……三三五
御伽百物語(わ)……五九〇
小野彥松……一
思ひのまに〳〵(〇八一―イ五)……三〇
おもひのまゝの日記(〇八一―イ五)……九〇
和蘭陀人風說書上……三三九
和蘭天地球圖(四四六―イ一)……四二〇

カ

外患備豫錄(二一〇・六―ト一四)……三二七
快賢……三五六
外冦考……三三九
海冦窃策……三三九
開國の滴積篇(二一〇・六―イ三)……三三〇
海國兵談(三九一・一―イ一)……四一三
海上物語(わ)……五七二

解縉(明) 三二四
諧聲圖(八二―イ五) 四五一
改正大內裏圖(二八八・一―イ三) 三四三
怪談全書 六四八
貝原益軒 三七三
海備芻言 三二九
海部左馬助 四三三
海防彙議(わ) 三二九
海防策(齋藤德藏著) 三二九
海防策(無名氏著) 三二九
海防策(無名氏著) 三二九
海防私策 三二九
海防私策評 三二九
海防說偖 三二九
海防之義ニ付申上候書付 三二九
海防備論 三二九
海防辨 三二九
海防論 三二九
海北若沖 四七四、四七五
魁本大字諸儒箋解古文眞寶(前集) 六四五
魁本大字諸儒箋解古文眞寶(後集)(九二〇・八一―イ三) 六四四
皆妄作 三二九
會林堂 六三三
嘉永己酉江川太郎左衛門對策 三二九
嘉永己酉大家同庵上書 三二九
嘉永己酉海防下問の令 三二九
嘉永己酉筒井紀伊守對策 三二九
嘉永庚戌大家同庵上書 三二九
鏡山故鄉錦 六〇五
加々見山故鄉錦稿本(九一三・六四―イ三) 六〇五
杜若(嵯峨本)(九一二・六―イ一) 四八七
鎰屋(江戶) 五三六
可恐錄(一九八・二一―イ三) 二八八
神樂歌入文卷二(〇八一―イ三) 二〇二
神樂考證(七六一―イ七) 四三四
(雅言考草稿本)(〇八一―イ三) 二〇六
雅言成法(八一一―イ三) 四三七
糟屋磯丸 一六五
糟居大輔 一六五
(歌詞展開表其一)(〇八一―イ一) 一八〇
(歌詞展開表其二)(〇八一―イ一) 一八一
可笑記(九一三・六一―三) 五七三
柏崎(嵯峨本)(九一二・六―イ三) 四八八
柏屋仁右衞門 三七九
Castiglione, Giuseppe 四三一
華箋堂 一七八
荷田在滿 七八
勝安房 六二一
葛飾北齋 六二五
桂川國瑞(甫周) 三九三
桂太郎 六二一
加藤宇万伎 一六五
加藤枝直 八六
加藤千陰 一六五
加藤南竹 二八八
梶取魚彥 一六五、二〇三、四七二
(假名遣手控)(〇八一―イ一) 一八四
賀のうた十二月繪題(〇八一―イ五) 一〇五
鹿の子はなし(九一七・五―イ二一) 六三〇
鹿の子はなし 六二九、六三三
樺山資紀 六二一
神谷克巳 八
神谷克楨 四四六
神代直語(〇八一―イ三) 一九五
神代直語(〇八一―イ三) 一九六
龜井昱 三二九
かめや彥右衛門 四〇八
蒲生秀實 三二九
賀茂翁家集(九二一・二六―イ一) 四八二
鴨梢永 三一三
鹿持雅澄 四三七、四六五
賀茂秀好 二二九
賀茂眞淵 三二、七八、九二、一六五、一六六、四七一、四八二
賀茂保可 二三一
通之次第同喰様之事 三九七
烏丸光廣 三九八
鴈金屋庄兵衛 三九八
狩衣抄(〇八一―イ五) 一二四
かるかや…(九二一・七―イ三七) 五〇四
かるかや道心(九二一・七―イ一一) 五〇五
輕口大かさり 六二九
輕口大かさり(九一七・五―イ九) 六三三
輕口露がはなし(九一七・五―イ一五) 六三三

かるくちばなし(九一七・五―イ一九) 六三二
喝蘭告密 三二九
喝蘭新譯地球全圖(二九〇・九―一三五) 三四九
蝸蘭新譯地球全圖 三五一
河勝五郎右衛門 五八一、五九七
川上操六 六二一
河南儀兵衛 一六五、一六六
川村純義 六二一
寛永行幸記(三二八・八―イ一) 三九八
圜悟(宋) 二六七
圜悟碧巖集 二六七
漢字三音考 一七五
(寛政元年京都紀行)(〇八一―イ五) 四二
寛政三亥年新嘗祭次第(〇八一―イ五) 一三五
(寛政三年大殿祭次第)(〇八一―イ五) 一三六
(寛政三年新嘗祭中院行幸行列)(〇八一―イ五) 九八
(寛政十年伊勢日記)(〇八一―イ五) 四五
(寛政二年新內裏還幸行列)(〇八一―イ五) 九五
(寛政二年仙洞新殿御幸行列)(〇八イ一―五) 九七
(寛政二年新嘗祭新內裏還幸行列)(〇八一―イ五) 九四
(寛政二年日記斷片)(〇八一―イ五) 四三
(寛政四年三月神祭日記)(〇八一―イ五) 四四
神田白龍子 四三三
關東御成敗式條(三二八・二―イ一) 三九五
關東米 六〇二
官板實測日本地圖(二九一・〇一―イ九) 三五七・
看聞日記(二一〇・五二―イ一) 三二六

キ

奇異怪談抄(九一三―タ三) 六四八
き丶書(〇八一―イ五) 一三
菊池武敎 一六五
菊之名之考(〇八一―イ三) 三二九
菊屋七郎兵衛 五七八、五八三
希杲 二七〇
豈好辨 三三九
擬極論時封事 三三九
己巳紀遊(三九一・四―イ一一) 三七三
歸正痴士 二七五
儀賊眞書鼠の足跡稿本初編(九一三・六四―イ一三) 六〇一
儀賊眞書鼠の足跡三編 六〇八
儀賊眞書鼠の足跡二編 六〇〇
擬對編 三三九
北澤伊八 三四九
北畠親房 二八九、二九三
北村四郎兵衛 三八三
吉文字屋市兵衛 五九三
紀中地名古事抄類聚上(二一〇・一―イ一七) 二九四
魏徵(唐) 三九九
記傳慨言(〇八一―イ三) 二一〇
記傳慨言(〇八一―イ三) 二一一
木戶孝允 六二一
甲子待鼠の本說稿本(九一三・六四―イ九) 六〇八
木國造 一六六
きのふはけふの物語(九一七・五―イ一七) 六三五
黃表紙外題索引(九一三・六四―イ一九) 六〇六
木村市郎兵衛 四三三、四三四
木村氏 五八七
木村藤兵衛 五二八
疑問(〇八一―イ五) 一〇九
儀邑 三三五
舊遣 四九一
宮王太夫 四三三
九州軍記(九二一・七―イ三三) 五一三
(九州地圖)(〇八一―イ五) 一五
Gutzlaff, Karl. F. A. 二八四
休明光記(二一〇・六―イ五) 三三一
京縫鎖帷子(わ) 五八八
凝然 二三九
經譽 二六五
享和元年辛酉上京日記(〇八一―イ一) 一七九
京童(わ) 三七四
京童跡追(わ) 三七五
玉屑集(〇二一―イ三) 二
曲亭馬琴 六一六
きよくばろん(九二一・七―イ五一) 五二一
玉篇(寛永二十一年本) 四五四
玉篇(慶長九年本) 四五五
玉篇 四五六
曲林集(七六一―イ一一) 四三五
淸さだ 一六五

請重(古活字本)(九二一・六—イ一五)……四八九・
請重……四九一
鶚伐策……三三九
虚舟子……五七八
御製逍遙詠(九二一・二—イ一)……六四六
清原少納言(宣賢)……三一四
清原宣通……三〇九
鬼理志端破却論傳卷下(一九〇・四—イ一五)……二七三
契利斯督記(一九八・二—イ一)……二八六
記錄之覺(〇八一—イ一五)……一四〇
記錄之覺(〇八一—イ一五)……一四一
記錄之覺(〇八一—イ一五)……一四三
錦繡段抄(九二一・二—イ一三)……六四七
〔謹上かき心得〕……三九七
近世蝦夷人物誌(二八一・七—イ一)……三三六
近世崎人傳拾遺草稿(二八一—イ一)……三三五
近世日本名士尺牘輯覽(九二六—イ一)……六二一
近代宣命秩粹(〇八一—イ一五)……一三三
公平牛鬼責(九二一・七—イ一三)……五一三

ク

空海……二六四
九鬼式部少輔組中に御達書……三三九
久喜萬字屋藤吉上書……三三九
草鹿砥宣隆……四七六
日下部伊三治……三四〇
草の垣根(八一三—イ一三)……四三九
舊事紀……三一六
九條稙道……五四一
葛花(〇八一—イ一五)……七三
藥之菊道……六二五、六二六
朽木龍橋……三九三
邦輔卿……五六一
國つち考(〇八一—イ一五)……七八
熊谷直彥……三四〇、三四一
〔熊野の御本地〕(物語)(九一三・五—イ一七)……五六〇
熊野之御本地(說經節)(九一一・七—イ一五五)……五一〇
雲妙間雨夜月(わ)……六一六
栗田運之進……一四〇、一四一、一四三、一四四
栗田嘉七……一六五
栗田龜吉……一一五
〔栗田家由緒書〕(〇八一—イ一五)……一四五
栗田幸八……一六五
栗田重信……一六六
栗田治左衞門……一六六
栗田主膳(宣秋)……一三四、一四五、一五五、一六六
栗田土滿……一三、一四、一五、一六、一七、一八、一九、二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇、三一、三二、三三、三四、三五、三六、三七、三八、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、一四七、一四八、一四九、一五〇、一五三、一六四
〔栗田土滿詠草〕(〇八一—イ一五)……一四
栗田土滿雜集(〇八一—イ一五)……六
〔栗田土滿書簡集〕(〇八一—イ一五)……一六四
〔栗田土滿來簡集〕(〇八一—イ一五)……一六五
栗田利兵衞……一六六
栗田〔郎儀〕……一六五
黑川春村……四四一、四五八
黑川眞賴……四四一
黑田清隆……六二一
黑田老侯……三三九
群書治要(三三九・二—イ一)……三九九
郡名考(三九一・〇三—イ一五)……三六三

ケ

Gale, Jas. S.……六四九
形影夜話(四九〇—イ一)……四三五
景戒……九三
經濟十二論中防夷兵備論……三三九
けいせい淺間嶽……五三四
けいせい柏の大黑天(九一三・六—イ一三)……五三三
けいせい新あさまのだけ(九一三・六—イ一二)……五三四
けいせい竹生嶋(九一三・六—イ一)……五三三
經世秘策……三三九
契情風流杉盃(わ)……五八五
契沖(九二一・三—イ一五)……四六六
惠中……五七三
慶長古寫本幸若富樫……四九三
慶長十五年刊日本書紀……三一〇
瓊浦通(三九一・六—イ一五)……三八四

外宮儀式帳(〇八一—イ一五)……五四
外宮子良館祭奠式(〇八一—イ一五)……五五
華嚴經……二四五
闕里誌(三九二・二—イ一)……三九一
けらわらひ(九一七・五—イ一三)……六三四
諺苑(三八九—イ一)……四一一
建久二年御修法記(一八八・四—イ一五)……二六五
獻芹微言……三三九
獻芹微衷……三三九
獻芹微衷評……三三九
獻芹微衷辨……三三九
元々集(三一〇・一—イ一三)……二九三
源語歌註(九一三・三六—イ七)……五三八
源語裝束抄付脊柏問答抄(九一三・三六—タ一)……五三九
〔けんさい物かたり〕(わ)……五七四
源氏十二だん(九二一・七—イ一五)……五〇〇
源氏物語(角倉本)(九一三・三六—イ一)……五四〇
健亭……一八七
元和二三年伊勢曆(四四五—イ一三)……四一七
元服之次第……三九七
源平盛衰記(古活字本)(二一〇・三—イ一三)……三一七
乾隆帝〔清〕……三三〇
元祿什我物語……五九七

コ

こあつもり(九一一・七—イ一四七)……五〇六
箇菴主道人……五三六
戀娘昔八丈稿本(九一三・六四—イ一五)……六〇七
廣韶(八二一—イ一三)……四四八
孔允植……三九一
弘化甲辰和蘭本國船の記……三三九
弘化甲辰筒井紀伊守上書……三三九
好色大振袖……五八六
好色河念佛(わ)……五八七
好色軒闖水……五八六
耕織圖(六一〇—イ一)……四二七
好色大神樂(九一三・六二—イ一)……五八六
好色代神樂……五八六
好色橋辨慶(九二一・七—イ一三)……五〇九
皇清職貢圖(二九〇・九—イ一三)……三三〇
かうしん之本地(九一三・五—イ一三)……五五九
考聲徵(八二一—イ一五)……四五三
高臺寺……二七一
皇太神宮儀式帳……五三
行嚢抄……二一三
興平……四七〇
香案園主人……四七六
弘法大師……二六四
弘法大師之御本地(九一一・七—イ一)……五〇七
紅毛文字覺書(〇八一—イ一五)……一一六
江流……五七八
幸若大夫……四九一
〔幸若舞曲三種〕(九一一・六—イ一二)……四九一
古芸餘香(〇二一—イ一)……一
古普譜(八二一—イ一五)……四四九
古普律呂三類(八二一—イ一五)……四五三
古賀煜……、……三二九
御學問所……三三一
古賀侗菴……三二九、三三九
後漢書(二二二—イ一三)……三三三
〔古器圖說〕(〇八一—イ一五)……一二一
古今和歌集春の哥の下(〇八一—イ一五)……六七
〔國學雜記〕(〇八一—イ一五)……一五一
國歌剩言(〇八一—イ一五)……七八
國歌八論(〇八一—イ一五)……七八
國號考料(三九一・〇三—イ一三)……三六三
克楨……八
〔古訓古事記序草稿〕(〇八一—イ一)……一八二
御元服祝詞(〇八一—イ一五)……六二
古今歷代中華地圖……三五一
五雜組拔萃(〇八一—イ一五)……一一一
古事記(二一〇・一—三一五)……二九五
古事記(寬永版本)(二一〇・一—イ七)……二九六
古事記歌(〇八一—イ一五)……六三
古事記傳考異(〇八一—イ一三)……二〇八
古事記傳考異(〇八一—イ一三)……二〇九
古事記傳三之卷(〇八一—イ一)……一六九
古事記傳雜註……二〇九
〔古事記傳拔書〕(〇八一—イ一五)……七五
〔古事記傳版下書反古〕(〇八一—イ一五)……七七
古事記傳略(二一〇・一—イ一九)……一九八
古事記夜都米佐須の辨(〇八一—イ一三)……二一八
古事記略解(二一〇・一—イ一三)……二九七
小嶋四郎兵衞……一六六

五車樓……一七八
〔五十番歌合判詞〕(〇八一—イ五)……一四七
五十四番歌合(〇八一—イ五)……一三四
五條爲德……一〇六
古書の包紙考(わ)……三
後崇光院……三三六
小杉椙邨……四〇二、四三九
湖西繁平……五八三
古聲譜(八二一—イ五)……四五〇
後撰集燈(わ)……四八〇
古代の髪の考(〇八一—イ三)……二三一
後藤象二郎……六三一
五島吉雄……九七
言靈(八三一—イ二)……四四〇
吳訥〔明〕……三九四
近衞篤麿……六二一
後婆通志與(Gobassho)(一九一—イ七)……二七六
小林平八……三四九
小藤原定家……四〇七
古文眞寶後集(古活字本)……六四四
古文眞寶前集(古活字本)……六四五
古木神樂歌(九二一・五一—イ一)……四八三
古萬葉集(九二一・三一—イ三)……四六七
後水尾院御集(九二一・六一—イ三)……四八一
こもちやまうば(九二一・七一—イ二五)……五〇八
小森桃塢……四六一
顧野王〔梁〕……四五四、四五五、四五六
後陽成天皇……三〇八
暦(四四五—イ五)……四一八
語例異語附(八三一—イ九)……四三八
古老口實傳(一七四—イ五)……二三四
Golounin……三〇一
金剛頂一切如來眞實攝大乘現證大敎王經(一八三—イ三二)……二五〇
こんちりさんのりやく(一九一—イ一)……二七七
近藤石見守組中江達留……三三九
近藤春彥……一六五、一六六
金春太夫……四三三
〔金春流謡本内外二百番〕(九二一・六一—イ三三)四六〇

サ

西園寺公望……六三一
西鶴織留(九一三・六一—イ五)……五九三
再刻とか除き規則(一九五—イ一)……二八五
西郷隆盛……六三一
西郷從道……六三一
最澄……一六三
齋藤右近……一六五
齋藤監物……一六五
齋藤主膳……一六五
齋藤拙堂……三七三
齋藤德藏……三三九
催馬樂入綾卷四(〇八一—イ三)……二〇三
催馬樂譜入文……二〇三
西鵬……五九三
榊山座……五三三
相模屋太兵衞……三五九、三六一
阪木春貞……三三九
阪木春貞建議……三三九
向坂兵衞……一六六
咲分五人娘(わ)……五九九
佐久間修理……三三九
佐久間象山……三四八
佐久間象山尺牘(二八九—イ三)……三四八
櫻井繁……一〇六—一〇七
櫻澤堂山……六一四
酒之古名匯志考(〇八一—イ五)……一二一
鶺鴒貞高……六一五
小篠敏……一六五
篠山攝津守……三三九
坐禪儀……二六九
貞方良助……二七五
雜記(〇八一—イ五)……三八
さつきの日記(〇八一—イ五)……四七
雜抄(〇八一—イ一)……一七一
佐藤赤井二生議……三三九
佐藤元海……三三九
佐藤元海記……三三九
佐藤百祐……三三九
佐渡七太夫……五三三
里村紹巴……五四四
上眞田侯書附火輪船國……三三九
佐野常民……六三一
さるけんじ(九一三・五一—イ二)……五六三

山雲子……六三四
三園(神谷)……八
三國通覽(〇八一—イ五)……一一四
三國通覽圖說(二九一—イ三)……三五三
三國通覽輿地路程全圖……三五三
三國佛法傳通緣起(古活字本)(一八八—イ三)……二五九
三獸演談(四八八—イ一)……四三三
纂集玉篇偏傍形似釋疑文字(〇八一—イ五)……一三五
三條實美……六三一
さんせう太夫(九二一・七—イ二九)……五一八
三條西實隆……五四三
三世柳亭種彥……五三三
三祖鑑智禪師信心銘……二六九
三大道辨(〇八一—イ三)……二三三
三大道辨(〇八一—イ三)……二一四
山東京山……六〇九
三白……三〇六
三寶類字集(高山寺本)……四四一

シ

鹽田松園……三三九
鹽谷行藏……三二九、三三九
鹽谷甲藏上書……三三九
字音假字用格……一七五
紫家七論(〇八一—イ五)……七一
鹿都部眞顏……六二四
鹿野武左衞門……六三九
鹿の卷筆(九一七・五一—イ二五)……六三九
似我蜂物語(わ)……五七〇
織安……四九一
字鏡(八三一—イ七)……四五七
字鏡集(八三一—イ五)……四五八
繁子道行振の歌(〇八一—イ五)……八九
四國落……四九一
自己問答(わ)……五七一
事纂(〇三一—イ九)……九
四十五番歌合(〇八一—イ五)……一一三
時習堂……四七九
紫塵愚抄(九一三・三六一—イ三)……五四四
師說自見集(九一三・三六一—イ一一)……五四五
しだ(九一一・六一—イ一九)……四九五
しだの小太郎(九一一・七一—イ四三)……五三〇
上執政相公閣下書……三三九
四諦論(一八三—イ七)……二五三
字典浪記(八三一—イ三)……四六〇
忍鎧殿之助……一六五
司馬江漢……四二〇、四二一
柴田八兵衞丈……三八〇
柴野栗山……一〇六
澁川六藏……三三九
澁澤榮一……六三一
四部錄(古活字本)(一八八・七一—イ一)……二六九
紫文譯解(〇八一—イ一)……一七〇
島上紀行……三七三
島津久光……六三一
嶋原金拾……四〇四
嶋原軍記(九一一・七一—イ四九)……五三一
嶋原大和こよみ(わ)……四〇六
淸水太郎……三三九
下河邊拾水……三八二
下村甚助……四三五
釋迦出世本懷傳記(九一三・五一—イ七)……五六五
しやかの御本地(九一一・七一—イ五三)……五一九
しやかの本地……五一九
しやかの本地(九一三・五一—イ二三)……五六四
釋尊出世本懷記……五六五
酌之次第……三九七
釋摩訶衍論(高野板)(一八三—イ一)……二五六
沙石集(古活字本)(九一三・四一—イ一)……五四九
謝肇淛〔明〕……一一
十牛圖……二六九
周煌〔淸〕……三八七
十住心論(一八八・四一—イ三)……二六四
住心論……二六四
重訂解體新書 銅版全圖(四九一—イ一)……四二六
〔十二段草子〕(九一三・五一—イ一三)……五三八
十二朝(軍談)書拔(〇八一—イ五)……一一七
秋帆上書……三三九
朱雲龍……二八六
酒造券之成……六三五
Schultz, Johann……三〇一
僞……三三九
純孝……四五五

荀子摘萃(〇八一—イ一)……一七一
春波樓……四二一
(俊明・枝直文集)(〇八一—イ一五)……八六
正運……四五五
松會……三八八、五七一
貞永式目……三九五
承兌……三三八
松會堂……四二三
正月揃(わ)……五九五
證慧……二六六
祥刑要覽(古活字本)(三二二—イ一)……三九四
勝憲……二六五
上古男女鬟辨(〇八一—イ一五)……七八
上古の髮の考(〇八一—イ一三)……三三〇
正直咄大鑑(九一七・五—イ一一)……六四〇
庄司道恕齋……四〇三
昌住……四五九
勝地徒跣(〇八一—イ一三)……二二三
松亭金水……六一八
墻東居……四二五
聖德太子傳曆(二八八・一—イ一五)……三四三
しやうとく太子の本地(九一三・五—イ一五)……五六六
淨土宗名目(古活字本)(一八八・六—イ一三)……二六六
焦秉貞……四二七
(正木屋)喜右衛門……五一三
正木屋吉兵衛……三八二
正木屋九兵衛……五三五
正木屋五兵衛……五一五、五三五
聲明集(一八六—イ一)……二五七
聲明集(高野版)(一八六—イ一二)……二五八
成唯識論(春日版)(一八三—イ一一)……二五五
上るりごぜん十二段さうし……五五八
(諸家詠草)(〇八一—イ一五)……一六七
(諸家書簡集)(〇八一—イ一五)……一六六
諸家存意書……三三九
(書家大略)(〇八一—イ一五)……一一八
諸家鐵槌論(わ)……二六〇
職原抄支流略書(〇八一—イ一五)……五九
諸侯防策上書、附柳營秘說淸朝風說書、オロシヤ書翰和解……三三九
諸國畝討……五八一
諸國文通所并名氏覺(〇八一—イ一五)……三二、一四
諸國落首咄(わ)……五九六
書札之次第……三九七
諸儒註解古文眞寶前集(九二〇・八—イ一)……六四五
諸宗評判記(一八八—イ一)……二六一
如水軒……五八七
ジョセフ彥(Joseph)……三三〇
諸品積咒經(一八三—イ一四五)……二五四
如儡子……五六七、五七三
諸分店甌……四〇五
白石彥兵衛……五三〇
兒雷也豪傑譚稿本第十編(九一三・六四—イ一七)……六〇四
神異例(〇八一—イ一三)……二〇〇
淸英合戰紀略……三三九
新可笑記(九一三・六一—イ一三)……五九三
(神鏡事)(一七一・一—イ一三)……二三〇
愼機論……三三九
(新古今集拔書)(〇八一—イ一五)……一四八
新刻古今疑問(〇八一—イ一五)……八一
心中八嶋(九一三・六—イ一五)……五三五
神蹟考(〇八一—イ一三)……二三三
深潜隱居……三三九
新撰狂歌集(わ)……六二八
新撰字鏡(八三一—イ九)……四五九
(神代紀葦牙校正刷)(〇八一—イ一五)……二一九
(神代紀葦牙稿本)(〇八一—イ一五)……二一八、五二三
(神代紀葦牙資料)(〇八一—イ一五)……五二一
神代紀心覺(〇八一—イ一三)……二一六
(神代紀索引)(〇八一—イ一三)……二一七
神代註解……二九三
神代卷古今顯要鈔(〇八一—イ一三)……二一五
神代卷注書(わ)……二九三
仁智要錄……四三六
信天山人……三三七
(神道灌頂印信)(一七一・一—イ一五)……二三九
しんとく丸(九一一・七—イ五七)……五三三
神皇正統記(二一〇—イ一)……二八九
神皇正統錄(二一〇—イ一三)……二九〇
(神拜行事)(〇八一—イ一五)……三三三
(神拜行事)(〇八一—イ一五)……五三二
神佛影守目錄(一六五—イ一)……二三七
新編眞田三代記稿本初・二・三編(九一三・六四—

イ一五)……六二一
新坊法印定盛……三二四
神保氏入道……五八一
(神武聖天皇荒陵圖話稿)(二八八・一—イ一七)……三四〇
神武聖天皇荒陵圖話稿(二八八・一—イ一七②)……三四一
神武天皇荒陵圖話……三四〇
(新譯聖書)(明治十二年刊)(一九三—イ一)……二八三
新野問答……一三三
新吉原つねづね草(求版本)(わ)……五九四
振鷺亭……六〇二

ス

水月菴迷色居士……四〇五
水產博覽會第一區第一類出品審査報告及同稿本(六六五—イ一)(六六五—イ一②)……四二八
水戰法秘訣抄……三三九
吹田屋太四郎……五九七
穗亭……四
(菅原爲長)……四五八
(菅原信幸著述序草稿))(〇八一—イ一五)……一五三
(菅原信幸母八十賀歌)(〇八一—イ一五)……七九
杉田玄伯……三三九、四二五
杉田伯元……四二五
杉田豫……三七一
杉村正高……五三三
椙山相秦……四三九
鈴木莊五郎上書……三三九
鈴木正三……二七三、二七四
鈴木仙藏……一六五
鈴木彈正……一六五
(鈴屋翁七周忌追善和歌)(〇八一—イ一五)……一五八
鈴屋哥集卷二(〇八一—イ一)……一七五
鈴の屋集近調の部はし書ある哥とも(〇八一—イ一五)……一七六
Steenbergen van Goor……三七一
須原屋茂兵衛……四二六、五八三
住吉物語(古活字本)(わ)……五四六
(駿河國蛙ヶ谷村若宮八幡宮棟札書)(〇八一—イ一五)……一三九

セ

聖敎初學要理(一九一—イ一五)……二七九
聖敎初學要理(一九一—イ一三)……二八〇
聖敎初學要理(一九一—イ一一)……二八一
性慶……三三九
正準……四七三
淸少納言……六一九
淸少納言枕草子……六一九
姓氏錄目錄(〇八一—イ一五)……一三〇
醒睡笑(九一七・五—イ一三)……六三七
醒睡笑(九一七・五—イ一三②)……六三八
非潜……三三九
青鳥舍一桃……六二五
西北紀行……三七三
西洋學家譯述目錄(〇一九—イ一三)……七
靑陽石廳礎稿本(九一三・六四—イ一二)……六一〇
瀨尾源兵衛……五七五
關四郎太……三二一
積翠陣人……六一八
關守雄……三二一
世說啓徵(二八二・二—イ一三)……三三七
世俗字類抄(二卷本)(八一三—イ一七)……四四二
雪窓宗崔……二八六
節用集(易林本)(〇三一—イ一)……一〇
節用集(饅頭屋本)(〇三一—イ一三)……一一
(瀨戶内海圖)(〇八一—イ一五)……一六
前漢書(二二一—イ一)……三三四
錢希明子遠甫……三四九
遷宮能理登許登(〇八一—イ一五)……二二
善光寺……五二七
善光寺堂供養(九一一・七—イ五九)……五二七
撰集作者考上(〇八一—イ一)……一八三
答千住某問……三三九
淺善水……三八四
先代舊事本紀(寬永版本)(二一〇・一—イ一五)……三一六
千梅……六九
宣風坊……四九〇
泉龍亭是正……六〇〇、六〇一、六〇八
禪林拔類聚……二七一
禪林類聚(五山版)(一八八・七—イ一五)……二七〇
禪林類聚(古活字本)(一八八・七—イ一三)……二七一

ソ

造菓子圖(〇八一—イ一五)……一三三

總國郡郷考料（二九一・〇三―イ七）……三六四
總國郡郷名字類聚（二九一・〇三―イ一）……三六五
箏備馬樂譜（七六一―イ五）……四三六
象志（四八八―イ五）……四二四
莊子摘腴（〇八一―イ一）……一七一
宗樹……二一八
宗長……五四四
宗鈍……四五五、四五六
象のみつき（四四八―イ三）……四二三
葬巻記（〇八一―イ五）……一三〇
草莽陳言……三三九
遭厄日本紀事（二九一・〇八―六九②）……三七一
藏用老人……三三八
層糧篇……二八六
副島種臣……六二一
〔俗語考浄書本〕（〇八一―イ三）……二〇五
〔俗語考草稿本〕（〇八一―イ三）……二〇四
續々外患備豫錄……三三七
續雜語考殘簡（〇八一―イ三）……二一三
續日本紀宣命……八〇
續日本紀宣命・日本逸史抜書（〇八一―イ五）八〇
續篇外患備豫錄……三三七
息距編（一九八・二―イ一五）……二八七
率性修道……二八六
袖の言の葉（〇八一―イ五）……一一〇
祖轉……四五五
園護孝……三四二
其蕠鄙面影稿本（九一三・六四―イ一三）……六二二

タ

大慧禪師法語卷第二十四・二十五（一八八・七―イ七）……二六八
大學問卷第一（二三五・四―イ一）……二三五
大廣益會玉篇（八三―イ一）……四五四
大廣益會玉篇（八三―一②）……四五五
大廣益會玉篇（八三―イ一③）……四五六
太閤記……五一三、五二三
太閤記第四 明智合戰（九二一・七―イ三二）……五二三
太閤記六之卷……五一三
醍醐寺代々付法事（わ）……二六三
對治邪宗論……二八六
大嘗會次第記（〇八一―イ五）……六〇
大職冠（九二一・六―イ一三）……四九二
秦西輿地圖說（二九三―イ一）……三九二
秦西錄話……三三九
太宗皇帝（宋）……六四六
大莊嚴經論（一八三―イ二二）……二四八
大内裡之圖（二八八・一―イ九）……三三九
大日本圖鑑（わ）……三五六
大日本全圖……三五一
大日本惣圖（二九一・〇一―イ五）……三五五
大般若波羅蜜多經（一八三―イ三七）……二三八
大般若波羅蜜多經（一八三―イ四一）……二三九
大般若波羅蜜多經（一八三―イ三五）……二四〇
大般若波羅蜜多經（一八三―イ二九）……二四一
大般若波羅蜜多經卷第三百四（一八三―イ一三）……二四二
大般涅槃經（一八三―イ四三）……二三七
大毗盧遮那經供養次第法疏（一八三―イ三五）二三六
大毗盧遮那成佛經疏（一八三―イ三五）……二三六
太平記（二一〇・四―イ五）……三三三
〔太平記抜書〕（二一〇・四―イ三）……三三三
大方廣佛華嚴經（一八三―イ九）……二四三
大方廣佛華嚴經（一八三―イ三九）……二四四
大方廣佛華嚴經第十六（一八三―イ三三）……二四五
大寶積經卷第一百七（一八三―イ一九）……二四七
大方等大集經月藏分中諸阿修羅詣佛諸品第三（一八三―イ一五）……二四六
大夢道人……四〇三
紀平重盛切（錬）父淨海事（〇八一―イ一）……一七二
高井蘭山……一一
高木秀條……二九五
高阪元禎（龍介）……三三一
高島四郎太夫……三三九
高嶋鞆之助……六二一
〔多賀城碑〕（〇八一―イ五）……一二九
高野長英……三三九
高橋景保……三七一
高橋廣道……四五九、四七五
高畠藍泉……五三三
高林舍人方朗……一六五
高山重藏……一六五
たから箱（わ）……五七八
瀧庄三郎……三一六

瀧のいと（〇八一―イ五）……一九
竹村茂雄（平右衛門）……一二七、一六五、一八三
〔竹村茂雄父六十賀歌集〕（〇八一―イ五）……一二七
武村新兵衛……五六九
武村尙規……一六五
竹屋光棣……八、三二三
多田南嶺（義俊）……二一五
多田利見（義俊）……八三
橘東世子……二〇七
橘冬照……二〇五、二〇七
橘道守……二〇五
橘守部……一九三、一九四、一九五、一九六、一九七、一九八、一九九、二〇〇、二〇一、二〇二、二〇三、二〇四、二〇五、二〇六、二〇七、二〇八、二〇九、二一〇、二一一、二一二、二一三、二一四、二一五、二一六、二一七、二一八、二一九、二二〇、二二一、二二二、二二三
橘守部稿本集（〇八一―イ三）……三六
駄都秘決……二六五
田中大秀……一六五
田中光顯……一
田中道麿……八一、四七
田中夢外……二〇三
田中彌一郎……三六二
谷川士清……一八五
與谷川淡齋書（〇八一―イ一）……一八五
谷干城……六二一
玉くしげ（〇八一―イ五）……一七五
玉の小櫛卷五……一七五
田丸屋重助……一六五
爲永春水……六二五
田安宗武……一七八
陀羅尼……二四九
達磨屋五一……三五二
探蝦錄（二九一・七―イ一）……三八九
短冊卷（二九九・六―イ一）……四一六
端什……二六〇
團水（北條）……五九二

チ

池庵月次兼題並當坐詠草……二〇六
千五百森傳說（〇八一―イ一）……一七六
籌海回循錄附寶島瀧妨一件……三三九
籌海私議……三三九
晝夜用心記（わ）……五八二
近松門左衛門……五〇九
地球全圖略說（四四七―イ一）……四二一
竹門散人逸志退局庵……四〇三
地志書目（わ）……三五二
張居正（明）……三三八
趙之垣（淸）……四〇一
長頭丸……三五一
朝鮮國全圖……三五三
朝鮮史略（官板）（二一九―イ三）……三三三
朝鮮地圖（二九一・九―六七）……三九〇
朝鮮琉球全圖……三五一
帳中秘鑑……三六九
陳鎬……三九一
陳孟榮……二七〇

ツ

通證座右（〇八一イ―五）……一七
辻茂右衛門上書……三三九
津登雀……五三八
つほのいしふみ（〇八一―イ五）……一二八
露五郎兵衛……六三三
釣舟物語……三三九
鶴峯彥一郎……三三九
鶴屋喜右衛門……四九八、五〇二、五七四、六二三、六四三
つれ〲お伽草（九一七・五―イ五）……六四三

テ

帝鑑圖說（古活字本）（二八二・二―イ一）……三三八
鐵山叟宗鈍……四五五、四五六
てにをは紐鏡（〇八一―イ一）……一七八
てにをは紐鏡稿本……一七七
寺師宗德……三七〇
天地靈氣記（わ）……二三一
天和改正服假令鈔（〇八一―イ五）……一二六
天王寺彼岸中日（九二一・七―イ一九）……五二四
天保庚子高島四郎太夫上書……三三九
天滿七太夫……五一九
天滿八太夫……四九九、五一九
天明九年正月廿四日和歌御會始歌（〇八一―五）……一〇二

〔天明三年伊勢日記〕(〇八一—イ五)……四〇
天明七年十一月踐祚大嘗會悠紀主基風俗歌以下御屏風歌並御桙頭木文御屏風本文(〇八一—イ五)……一〇〇
天明七年大嘗大祀 卯日辰日己日豐明 等次第 (〇八一—イ五)……一〇一
〔天明七年大嘗大祀之由被告於三社奉幣宣命〕(〇八一—イ五)……九九
〔天明七年濟名行雜記〕(〇八一—イ五)……四一
傳來聞書(〇八一—イ五)……一〇四
天路歷程 텬로력뎡 샹(九三三—イ三)……六四九

ト

道隱……三二七
棠陰比事……三九四
桐園……七
東海道敵討(わ)……五九七
東海道分間繪圖(わ)……三五四
桃源集(わ)……四〇七
東國式內大社拜神帳(〇八一—イ五)……八八
藤賀大風軒……五八一
堂上地下雪月花歌合(〇八一—イ五)……一〇三
當世はなしの本(九一七・五—イ一)……六四三
唐船來朝圖(二九一・六—四三)……三八八
道泰(元)……二七一
道八……二六〇
洞房語園(わ)……四〇三
洞房語園集……四〇三
道木……四五五
答問十策附沙居圖……三三九
遠山左ヱ門尉……三三九
遠山信武(素俊)……二九一
とうらくしとんせい坊……四〇八
當流小栗判官(九一一・七—イ二一)……五三五
當流咄初笑(九一七・五—イ一三)……六四一
富樫(九二一・六—イ九)……四九三
士岐因輔……一六五
士岐建雄……一六五
齋間信幸……六一、一六五
讀海防彙議……三三九
德川家十五代記……六一三
德川十五代傳記稿本前、後編(九一三・六四—イ七)……六一三
德川將軍家五十御賀和歌(〇八一—イ五)……一六一
德大寺實則……六二一
德富蘇峰……六二一
德丸之記……三三九
舍人親王……三〇〇、三〇一、三〇二、三〇三、三〇五、三〇六、三〇七、三〇八、三〇九、三一〇
殿村常久……三〇九
富尾似船……五六九
富永平兵衛……五三五
朝長(嵯峨木)(九一一・六—イ七)……四九四
止由氣宮儀式帳……五四
豐臣秀賴……三三八
鳥居請信……五一〇、五一九
鳥居耀藏建白……三三九
鳥居耀藏建白評……三三九
とりかへばや(九一三・三九—イ一)……五四七
とりかへばや物語(九一三・三九—イ一②)……五四八
居龍居士……三三九
呑海肇基論……三三九
鈍句齋……六二五、六二六

ナ

內宮儀式帳(〇八一—イ五)……五三
內侍所渡御行列(〇八一—イ五)……九六
內藤兵庫……一六五
內藤廣前……三三九
內密答問錄……三三九
中伊三郎……四二六
中岡益(叔享)……三八四
中川喜雲……三七四、三七五
長久保赤水……三四九、三五一
〔長崎大地圖〕(二九一・六—イ七)……三八五
長崎土產(三八七—イ一)……四〇四
長崎蟲眼鏡(二九一・六—イ三)……三八六
永田長兵衛……六三六
中臣壽詞(〇八一—イ五)……六三
中臣祓氣吹抄拔書(〇八一—イ五)……八三
中野孫三郎……五九一
中村徹宇……六三一
中村富平(孫兵衛)……四、五

中村平五(三近子)……四二三
長山貫……三三九
中山繁樹……四七六
半井梧庵……二九七、二九八
半井卜養……六三三
名嶋政守……一六五
夏目甕麿……一六五
なつめやとも泰……四三九
浪華梅……三三九
浪花錘(わ)……四〇五
那波列翁傳初篇(二九八—イ一)……三四五
那波列翁傳初篇(二八九—イ一②)……三四六
Napoleon Bonaparte……三四五、三四六
舩屋安兵衛……四二六
並川甚三郎……四二三、四二四
並木與兵衛……二六一
滑川澹如……一
奈良暦(四四五、二七②)……四一九
奈良名所八重櫻(二九一・四—イ七)……三七九
繩和田孫兵衛議……三三九
南華軒……四〇五
男色伊勢物語……五八九
男色大鑑……五八九
男色哥書羽織(九一三・六二—イ七)……五八九
南都樽井町……三七六、三七七
南都名所集(二九一・四—イ五)……三七八
南都名所道筋記(二九一・四—イ三)……三七六
南都名所道筋記(二九一・四—イ三②)……三七七
難波宗量……四八一
南遊紀事……三七三

ニ

新島襄……六三一
二休咄(九一七・五—イ二七)……六三六
西澤一風……五八三、五八四
西澤軒……五九七
西澤貞陳(太兵衛)……五一四、五八一
西澤與志……五八三
西村天囚……六三一
西村半兵衛……六三六
西村屋……五六三
二條良基……九〇
二しんかうちざうのほんぢ(九一一・七—イ九)……五一四
日域木紀(一七一・一—イ一)……二二八
日諱貴本記……二二八
日本異國往來記(二一〇—イ五)……二九一
日本逸史拔書(〇八一—イ五)……八〇
日本海山潮陸圖(二九一・〇一—イ七)……三五九、三六一
日本行紀(二九一・〇八—イ三)……三六八
日本行記(二九一・〇八—イ五)……三六九
日本支那朝鮮蝦夷世界全圖(二九〇・九一—イ一)……三五一
日本書紀(青柳種麿書入本)(二一〇・一—イ二七)……二九九
日本書紀(山梨稻川書入本)(二一〇・一—イ三七)……三〇〇
日本書紀(二一〇・一—イ二九)……三〇一
日本書紀(二一〇・一—イ三五)……三〇二
日本書紀(二一〇・一—イ三三)……三〇三
日本書紀(假名書)(二一〇・一—イ一一)……三〇四
日本書紀(古活字本)(二一〇・一—イ一③)……三〇五
日本書紀(慶長十五年活字本)(二一〇・一—イ三)……三〇六
日本書紀(二一〇・一—イ三②)……三〇七
日本書紀訓考第六卷(二一〇・一—イ三三)……三一一
日本書紀纂疏(二一〇・一—イ九)……三一三
日本書紀纂疏(二一〇・一—イ九②)……三一四
日本書紀神代卷(勅版)(二一〇・一—イ一)……三〇八
日本書紀神代卷(殿村常久書入本)(二一〇・一—イ一②)……三〇九
日本書紀神代卷(古活字本)(二一〇・一—イ一④)……三一〇
日本書紀撰定之事(二一〇・一—イ三五)……三一五
日本書紀通證……一七
日本書紀類聚解(二一〇・一—イ一五)……三一二
日本圖鑑綱目(二九一・〇一—イ一)……三六一
日本全圖(二九一・〇一—イ三)……三六〇
日本分形圖(わ)……三五八
(日本靈異記拔書)(〇八一—イ五)……九三
Nieuwe-Gedruct Bastaardt Woorden-Boek 四六四
Nieuw Versameld Japanen hollandsch Woorden boek……四六三

ネ

根來板……二五〇
年夾末詳上洛日記(〇八一—イ五)……四九
年夾末詳日記(〇八一—イ五)……三〇

ノ

農商務省農務局……四二八
野宮宰相問答(〇八一—イ五)……五八
野宮定基……五八、一一三
信長記(古活字本)(二一〇・五—イ一)……三三五
乗付陣人……三三七
〔祝詞集〕(〇八一—イ五)……二三
〔祝詞集〕(〇八一—イ五)……九一
〔祝詞集〕(〇八一—イ五)……一二七
宣長翁遺芳(〇八一—イ一)……三二一

ハ

梅丘……六二五、六二六
楳條軒……五七八
Heine, Wilhelm……三六八
萩野鳩谷……三九二
破鬼理至端……二七三
破吉利支丹(一九〇・四—イ七)……二七四
白眼居士……二六〇、五九五
柏亭眞直……二九三
駿德丸之記……三二九
白梅園鶯水……五九〇
白樂天(嵯峨本)(九二一・六—イ五)……四八六
羽倉外記……三三九
羽倉民子……一六五
橋本稻彥……一六五
橋本宗吉……三四九、三五一
橋本經亮……九九、一〇〇、一〇一、一〇二、一三三、一六五、四七九
婆心錄……三三九
〔畠山六郎〕……四九一
秦宗巴……五六八
羽田野敬雄……四七六
羽田文庫……四七六
八幡宮御緣起(九一三・五—イ三五)……五五三
八まんの本地(九一三・五—イ三一)……五五四
八幡本地(九一三・五—イ三五)……五五三
八文字屋五兵衛……三七四
八文字屋八左衛門……五二七、五三一、五三三、五三四
服部政世……三三七
破提宇子(一九〇・四—イ三)……二七三
馬場貞由……三七一
Fabian……二七二
土生熊五郎……三三九
羽太正養……三三一
波夫理和射乃考(三八六—イ一)……四〇二
林權兵衛……三八二
林子平……一一四、三五三、四一二
林羅山……六四八
葉山信果……五四八
針供養御事始(わ)……六〇二
范曄……三三三
板木屋彥右衛門……五〇五
班固(漢)……三三四
伴香竹……一六六
班昭(漢)……三三四
〔番神繪卷〕(三九九・四—イ一)……四一五
伴信友(州五郎)……八、一六五、四四一
Bunyan, John……六四九

ヒ

日尾英連……三四〇、三四一
日緒賓石……三四〇
東山天皇……二八九
樋口宗武……一三三
樋口氏雜説……一一三
彥藏……三三〇
〔肥後國岩戸山出土品圖〕(〇八一—イ五)……一六〇
土方久元……六二一
菱川師宣(吉兵衛)……三五四、三七九、六四〇
〔土滿祖叉五十年祭祝詞〕(〇八一—イ五)……一六二
〔土滿母歌集序〕(〇八一—イ五)……一五〇
〔土滿母十三年祭祝詞〕(〇八一—イ五)……一六六
〔土滿文反古〕(〇八一—イ五)……一六八
菱屋治兵衛……五九〇、五九九
秀親……四一六
英親親王……六
人丸姫れんほの緣……五〇二
人見竹洞……三七三

一目玉鉾(二九一・〇六—イ一)……三六六
日下開山名人そろへ(わ)……六〇三
秘蜜曼荼羅十住心論……二六四
百芽……三八二
百人一首古説(〇八一—イ五)……六八
〔百人一首作者略傳〕(〇八一—イ五)……一八
百八町記(わ)……五六七
百萬塔陀羅尼(一八三—イ四七)……二四九
白蓮子……三二七
日向かけきよ(九二一・七—イ三五)……五〇二
漂客次郎吉話……三三九
平井藤右衛門……四三三
平尾某……一一六
〔平尾八幡再建補助願〕(〇八一—イ五)……一五五
平田大人竝門人著述書入費目錄(〇八一—イ五)……一五九
平野屋善六……三七二
平野よみかへりの草紙(九一三・五—イ二七)……五五五
平山行藏……三二九、三三九
Pilgrim's Progress……六四九
廣澤直臣……六二一
〔廣幡八幡宮石鳥居奉獻祝詞〕(〇八一—イ五)三五

フ

Juan de Rueda……二七八
風月宗知……二八九
風月宗智……二九五
風月堂……五九五
風簾(七六一—イ九)……四三三
風流今平家(わ)……五八三
福地源一郎……六二一
武家諸禮集(古活字本)(わ)……三九六
武家傳奏より所司代江達書……三三九
傅恒〔清〕……三五〇
福澤諭吉……六二一
藤井吉兵衛尉……五七七
藤川憲……三三九
藤島長敏……三三〇
Petitjean, Bernard……二七六、二七八、二八〇、二八一、二八五
藤田東湖……三四四
藤田東湖書簡集(二八九—イ七)……三四四
富士谷御杖……四八〇
藤林淳道……四六一
伏見常磐(九二一・六—イ一二)……四八五
伏見宮邦輔親王……五六一
藤木箕山……四〇四
藤木兵左衛門……六四〇
藤森恭助……三三九
藤原兼輔……三四三
藤原兼良……三一四
藤原公任……四八四
藤原輝實……八
藤原道長……三三〇
武心士峯……五六七
不長德……二八五、四一〇
佛果圜悟禪師碧巖錄(一八八・七—イ九)……二六七
佛齋居士……三四九
佛足石歌(〇八一—イ五)……六四
武道一覽(わ)……五八一
武道傳來記(わ)……五八〇
不得已辨……三三九
負文龜奏議(〇八一—イ五)……一〇六
古山師重……六〇九
Brown, Nathan……二八二
文化二年乙丑上京一件(〇八一—イ五)……四八
〔文化二年上洛日記〕(〇八一—イ五)……四六
文行堂……六〇六
分道江戶大繪圖(二九一・一—六二)……三七三
芬蘭齋夢物語……三三九
文室眞人智努……六四

ヘ

平家物語一之卷(九二一・七—イ一七)……五〇一
平治物語(二一〇・三—イ一)……三一九
平他字類抄(八三一—イ一)……四四六
平旦昭……四六〇
平定伊犁銅版畫(七二四—イ三)……四三一
平定兩金川銅版畫(七二四—イ一)……四三三
幣里神官愼終記(〇八一—イ五)……六一
碧巖集(五山版)……二六七
日置流弓假目錄(〇八一—イ五)……一六三
別補後身寸邑子……二〇一
Bettelheim……二八三
Petero Maria……二七九

ぺるなるど……二八〇
Perry……三六九
ペルリ日本航海日誌(二九一・〇八―イ一)……三七〇
辨疑書目錄(〇二九―イ一)……四
辨疑書目錄(〇二九―イ一②)……五
邊防火技水戰論……三三九

ホ

帆足下總……一六五、一六七
法雲(宋)……二三五
防海微言……三三九
奉願口上書(〇八一―イ五)……一四三
奉願口上之覺(〇八一―イ五)……一四四
方谷先生遺墨(二八九―イ五)……三四七
奉使日本紀行(二九一・〇八―イ七)……三六七
防春或問……三三九
北條安房守……二八六
北條團水……五八二
〔豐藏坊狂歌卷〕(わ)……六三三
豐藏坊信海……六三三、六三四
豐藏坊信海狂歌集(わ)……六三四
法隆寺金堂壁畫(七二一―イ一)……四三〇
蓬萊雅樂瓠形(荒木田倘賢)……一六五、一六七
捕影問答……三三九
捕影問答後篇……三三九
北槎聞略(二九三・八―イ一)……三九三
北狄事略(二一〇・六―イ一)……三三八
北陸聞見附錄……三三九
卜養狂歌集(わ)……六三三
法華經……二五一、二五三
保元物語(二一〇・三―イ一)……三一八
戊申鎖夏記……三三八
戊戌夢物語……三三九
戊戌夢物語評……三三九
牡丹花肖柏……五三九、五四三
上北闕書……三三九
堀景山……一七三
堀野屋儀助……三三三
本阿彌行狀記(わ)……四二九
本田次兵衞……五七五
本田三郎右衞門……三三九、四三〇
本朝鄙耶之枕……五三四
本朝事始(〇八一―イ五)……三七
本朝書籍目錄(〇二九―イ五)……六
本朝町人鑑……五九二
飜譯名義集(古活字本)(一八〇・三―イ一)……二三五
本屋利兵衞……五七八

マ

前川六左衞門……三三二
前田夏繁……三六四、三六五
麻賀能比禮(〇八一―イ五)……七三
枕草子(古活字本)(九一四・三―イ一)……六一九
增鏡(古活字本)(二一〇・四―イ一)……三三四
升屋五郎右衞門……五九七
ますらを物語(九一三・六五―イ一)……六一七
松岡恕庵……三七三
松岡直淸……三〇二
松浦武四郎……三三六
松會……三八八、五七一
松會堂……四三三
松方正義……六二一
松貞……六一四
松平定信……三〇四
松永貞德……二五一
松迺花稿本五編(九一三・六八―イ一)……六一八
松葉屋平左衞門……五九八
末法燈明記(古活字本)(一八八・三―イ三)……三六二
松木斗機藏……三三九
松木斗機藏書附和蘭寶函漂民護送英吉利モ
ルリツソン船一條抄譯……三三九
丸鏡(丸てつ)……六〇八、六三三
萬壽盛典初集(三八四―イ一)……四〇一
萬葉再問……四七一
萬葉集(古活字本)(九一一・一二―イ一九)……四六八
〔萬葉集佳調〕(〇八一―イ五)……六五
萬葉集疑條……四七一
萬葉集句分(九一一・一二―イ一三)……四七〇
萬葉集詞解(九一一・一二―イ五)……四七三
萬葉集採藥(九一一・一二―イ一七)……四七二
萬葉集作主履歷(九一一・一二―イ七)……四七四
萬葉集作主履歷(九一一・一二―イ七②)……四七五
萬葉集檜嬬手(〇八一―イ三)……一九八
萬葉集檜嬬手別記(〇八一―イ三)……一九九

萬葉集分類(九一一・一二―イ一七)……四六九
萬葉集問答書……四七七
萬葉集問目(九一一・一二―イ一三)……四七一
萬葉集類詞抄(九一一・一二―イ一九)……四七六
萬葉代匠記(初稿本)(九一一・一二―イ一五)……四六六
萬葉答問錄(九一一・一二―イ一五)……四七七
萬葉檜抓……一九八
萬葉問目……四七一
萬葉和歌集(小栗廣作書入本)(九一一・一二―
・一)……四七八
萬葉和歌集校異(九一一・一二―イ九)……四七九

ミ

〔三河國圖〕(〇八一―イ五)……一四
三崎庄兵衞……五九一
三崎半兵衞……五九一
美圖垣笑顏……六〇四
水谷不倒……三
水野盧朝……四〇〇
三谷堯民……三三九
道麿呂隨筆に對ていふ(〇八一―イ五)……八二
御堂關日記(二一〇・三五―イ一)……三三〇
水戶藩……二八七
三橋藤右衞門……一六五
皆川洪園……三三七
皆川箕齋……三三七
南西厓(寧一)……四二六
みなもとのよしみつ……四六九
都太夫……五三一
都の錦……五九七
官路常雄……四七六
宮增彌七……四三三
宮本三平……三六〇
妙心禪寺內正眼庵……二六七
妙法蓮華經(一八三―イ二七)……二五一
妙法蓮華經勸持品第十三(一八三―イ七)……二五三
民部省圖帳(〇八一―イ五)……八七

ム

昔むかし盲文謡話……四〇〇
〔麥搗うた〕(〇八一―イ五)……八四
無住……五四九
無人齋(幸若六世)……四九一
無人島之圖……三五三
夢醒眞論(一九〇・四―イ九)……二七五
陸奧宗光……六二一
武藤氏西察……五六七
無妙抄(九一三・三六―イ五)……五四三
村井道弘……三七八
紫式部……五四〇
村田君の御もとにまゐらする返事(〇八一―イ
一)……一八九
村田春海……一八八、一八九、一九〇、四八二
村山平右衞門……五三五

メ

明訓一斑抄……三三九
名女情比(わ)……五七五
〔明和七年雜記〕(〇八一―イ五)……三七
面向不背玉……五三〇

モ

孟津抄(九一三・三六―イ九)……五四一
もくれんのさうし(九一三・五―イ一一)……五六一
尤之双紙(わ)……五七七
本居大平……一三四
一二七、一六六、一八八、一八九、一九〇、一九一、一九二
本居大平宛書簡二通(〇八一―イ一)……一八七
〔本居家譜〕(〇八一―イ一)……一八六
本居先生著述目錄(〇八一―イ五)……一五三
本居宣長……三五、七三、七四、七五、七六、七七、一一九
一三〇、一六五、一六九、一七〇、一七一、一七二、一七三
一七四、一七五、一七六、一七七、一七八、一七九、一八〇
一八一、一八二、一八三、一八五、一九一、四七一、四七七
本居春庭……一六五、一八七
元田永孚……六二一
本林伊祐……三七九
戾鴛籠故鄉錦繪(わ)……六〇九
百々次宣……四二一
盲文謡話(わ)……四〇〇
森木東鳥……五八八
守屋幸助……三四七
守屋直兵衞……三四七
森有禮……六二一

森六兵衛……一六五
もんがく(九二三・六二—イ一)……五七六
問答のことば(〇八一—イ五)……一四九

ヤ

八重櫻……三七九
藥師通夜物語(わ)……五七九
野荒問答(〇八一—イ五)……一三三
屋代昭南……三六三
安井嘉兵衛……四三三、四三四
やすらひ花の歌(〇八一—イ五)……八五
野叟獨語……三三九
約翰福音之傳(一九三・六—イ三)……二八四
譯鍵(八四九—二七)……四六一
矢野長兵衛……三八三
山岡俊明……八六
山岡鐵太郎……六三一
山鹿素水……三三九
山縣有朋……六三一
山口屋須藤權兵衛……三七三
山城州大繪圖(二九一・四—一六五)……三八三
山田顯義……六三二
山田市郎兵衛……五七六
山田以文……四七九
山田方谷……三四七
山由屋三四郎……六三九
大和國大繪圖(わ)……三八三
大和國細見圖……三八三
大和名所記……三八一
山中共古……二一七
山梨稻川……三〇〇、四四九、四五〇、四五一、四五二、四五三
山根鄭實……八
山本角太夫……五三四
山本九左衛門……四九五
山本九兵衛……五三四
山本土佐掾……五三七
山本八左衛門……六三六
山本平左衛門……五七三
山本亡羊……三七三
山森六兵衛……三七五
山屋治右衛門……四九七
鑓の權三重帷子……五〇九

ユ

ゆいせき諍(九二一・七—イ五)……五三六
結城正明……三六〇
有職聞書……三八
雄長老……六二八
夕のおひ風(〇八一—イ一)……一七七
唯樂軒……五九一
夢々物語……三三九

ヨ

洋學指針(八四九—イ一)……四六三
謠曲百番(嵯峨本)(九二一・六—イ三五)……四九六
陽明先生遺言逸事……二三五
陽明先生辨証……二三五
横田美水……四六七
奉吉田宰相書……三三九
義經千本櫻稿本前後編(九二三・六四—イ一)……六二四
吉野隆平……四四一
吉原あくた川名寄(わ)……四〇八
(吉原歌仙)(わ)……四〇九
吉原酒てんとうじ(わ)……四一〇
世の人心……五九二
約翰福音之傳……二八四
萬請取渡之次第……三九七
萬木次兵衛……五八三
萬鎂方之次第……三九七
萬屋作右衛門……六四一
萬屋清兵衛……五九三、五九八

ラ

懶齋龜藏……三八一
賴德太郎……三三九
樂之齋松圃……六三六
洛汭野子三白……三〇六
洛陽小僧松泉……六四一
蘭語譯撰(八四九—三三)……四六三
蘭石山八武力游……三三七
蘭和辭彙(八四九—三〇)……四六四

リ

癈不愧緯……三三九

陸法言……四四八
立身大福帳(わ)……五九一
畧稜次第覺(〇八一—イ五)……一三八
(琉球官話集)(わ)……四四五
琉球國志略(武英殿聚珍版)(二九一・六—イ一)……三八七
琉球國全圖……三五三
龍耳軒……六〇六
隆勝……二六三
柳水亭種清……六〇五、六〇七、六二一、六二三、六二四
柳亭家集(わ)……六〇七
柳亭種彥(初代)……六〇二、六〇七
綠竹軒榮秀……五八八
隣痴臆議……三三九
臨川寺……二七〇
林宗甫……三八一
リンデン……三四五、三四六

ル

類語品彙(〇八一—イ三)……二〇七
類聚名義抄(八二三—イ五)……四四一
類聚名義抄(觀智院本)……四四一
類聚名義抄(西念寺本)……四四一
類聚名義抄(蓮成院本)……四四一
路加傳福音書(一九三・六—イ一)……二八三

レ

靈元天皇……四八一
嵩松院會和歌序(〇八一—イ一)……一七三
歷朝神異例……二〇〇
列子拔萃(〇八一—イ一)……一七一
蓮運……二三七、二四四
煉霞翁年譜(一〇・六—ト一四)……三三七
蓮實軒……六三六

ロ

(朗詠今樣譜)(〇八一—イ五)……九二
朗詠和漢集……四八四
弄花抄(九二三・三六—イ一三)……五四三
老子(〇八一—イ一)……一七一
老子經(河上公注)(一三六・一—イ一)……三三六
郎世寧……四三一
老聃(周)……三三六
老子道經……三三六
老子德經……三三六
玫瑰花冠記錄(一九一—イ九)……二七八
倫魯西亞策……三三九

ワ

和歌會式(〇八一—イ五)……六六
(和歌選集計畫書)(〇八一—イ五)……一四六
若宮美津吉……八八
和漢朗詠集(九二一・五—イ一)……四八四
倭玉篇(八二三—イ一)……四四三
倭玉篇(慶長十八年本)(八二三—イ三)……四四四
蒦縕輪(〇八一—イ五)……六九
和訓類林(〇三一—イ七)……一三
和氣忠見……二九八
倭語釋傳正義略(〇八一—イ五)……六三
和州舊跡幽考(二九一・四—一五七)……三八一
和州寺社記(二九一・四—イ九)……三八〇
和田作太夫邦孝……一六五
渡邊堅磐……一六五
渡邊國武……六三一
渡邊洪基……六三一
渡邊善兵衛……三三五
渡邊登……三三九
綿屋彌兵衛……一六五
度會末雅……三一五
度會延經……二五四
度會延誠……二三四
度會正兌……四七〇
度會益弘……三五五

昭和十五年十月十五日印刷
昭和十五年十月十八日發行

編輯兼發行者　奈良縣丹波市町
天理圖書館
右代表者　富永牧太

印刷者　奈良縣丹波市町
天理時報社
右代表者　岡島善次

10018

終